

(63)

面方田神外るた見りよ橋世萬

外神田とはお茶の水附近より美倉橋附近までの間、外濠以北にある神田區域一帯の總稱で、蓋し濠を隔てた外にあるの謂である。貨物車散の犬駱と葉ヶ原はその花園町にあつて焼失した。僅かに残つたのは和泉町、平河町、佐久間町、松永町の一部に過ぎない。圖は萬世橋より大路坦々として上野へ通ずる仲町大通りと其附近である。



Devastation at Soto-Kanda, seeing to Ueno Park from Mansei-bashi Bridge.



Devasta





街路四通、東北の關門、野驛と上野公園に近く、街頭松坂屋呉服店、博品館等があつて晝夜股賑を極めた上野廣小路附近は、最初の震火が幸に免れたと思ふ間もなく、二日の夜に至つて再び猛火起り、見る間に火の海と化してしまつた。山下一帯を焼拂つた火は上野公園を掠めて遠く三の輪まで及んだ。

Ueno-hirokoji, avenue to Ueno Park, devastated by the fire in the next evening of the quake.



ngo Ward.



(65)

湯島臺より上野を望む

本郷梅園町の高地にあつて、神田明神、愛宕神社と共に市内眺望の三佳景と稱せられる湯島天神は、春木町方面と外神田よりの相合した猛火に包まれたが、境内旗亭魚十と共に辛くも焼失を免れた。寫眞は境内東方の懸崖より上野方面不忍池畔の燒跡を望んだ光景である。



Burned ground in the vicinity of Ueno seen from Yushima, Hongo Ward.







Asakusa Park.



上圖は上野公園機ヶ岡より俯視した淺草方面で、昨日の盛觀跡方もなく、唯一望の焦土であつて眼に馴れた淺草園が姿を失つたのも異様な淋しさを覺えしめる。下圖は眞下の上野驛である。此處では線路に充滿する避難民の爲に多くの列車を回避せしめる事が不能となり、何れも橋内に置いた儘焼失した。小圖は激震のため頭部が無残に轉落した上野公園の大佛である。

Upper: Burnt ground in the vicinity of Asakusa, looked down from Sakuragaoka,

Lower: Ueno Park. Devastated Ueno Station.

Smaller: Head of colossal statue of Buddha at Ueno Park, fall down off his shoulder.



淺草仲見世は人も知る如く、淺草公園雷門址より仁王門に至る間の石畳を敷いた参詣路で、兩側百數十軒の商舖は多く玩具、小間物等が商ひ、四時雑踏すること東京第一と稱された處である。此附近は震後直に發した六區興行街よりの火のため、一時にして焼失した。小間物は地震に倒れた觀音地内の石燈籠である。



Remains of Nakamise, bustling street to the Kannon Temple at Asakusa Park.



Up  
Lo  
Sm





Devastation at Asakusa; Kannon Temple in back ground. The temple miraculously remained unburnt, saving several million of refugees dushed in the precincts.

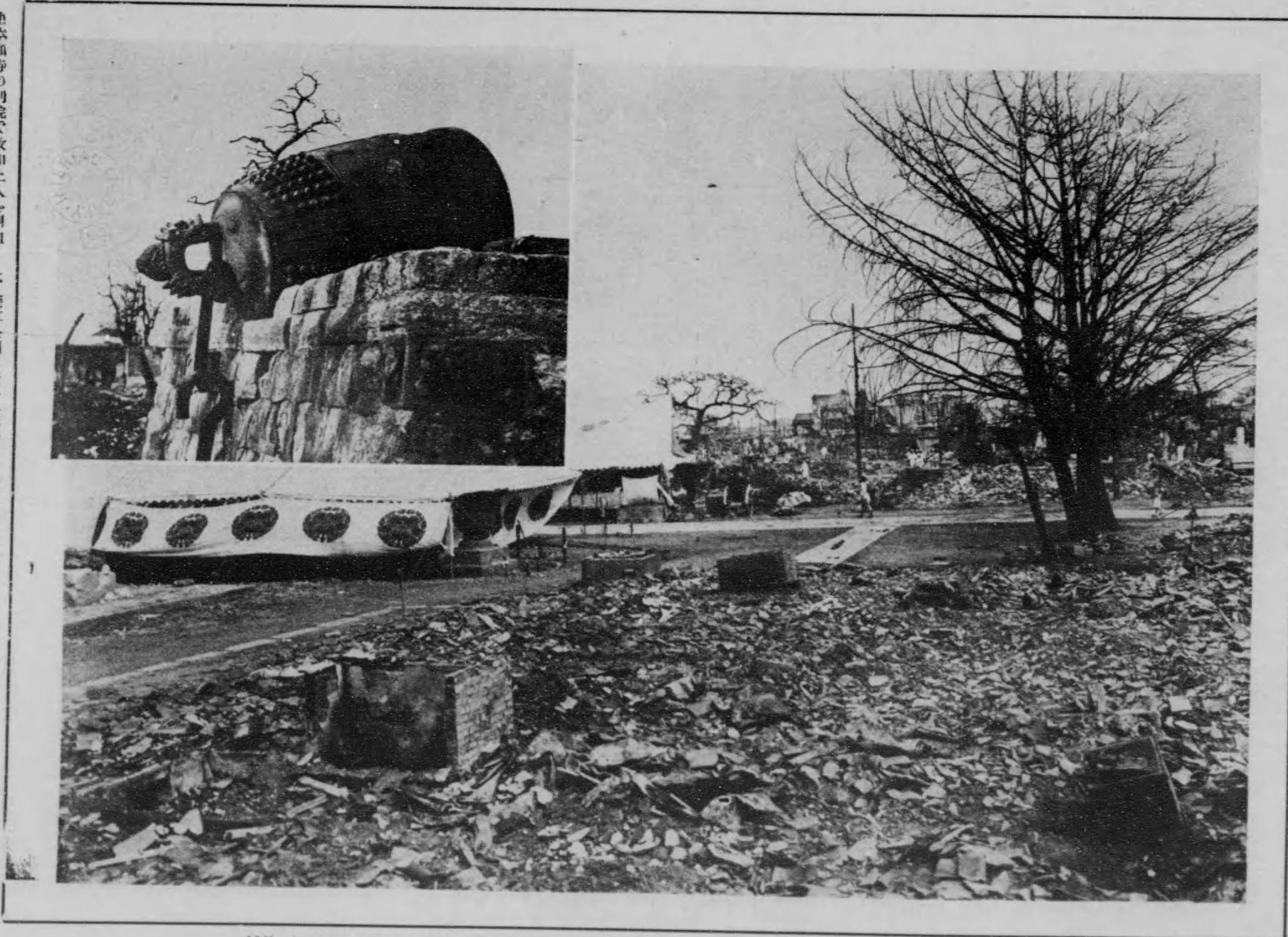
關東一の靈場と聞えた淺草觀音堂は、天に沖する猛火の裡に包まれながら、本堂、仁王門、五重塔及び境内の淺草神社、淡島堂、傳法院等と共に不思議にも焼け残った。境内に逃れた數萬人の避難者は其ために死地より脱する事が出来たと言ふ。圖は花川戸町より馬道の焼跡を越えて望んだ其本堂及び五重塔である。



s of



東本願寺の別院で致如上人を開祖とし、淺草公園に近い松崎町にあつて、淺草門跡と呼ばれた名刹であるが、淺草興業街を焼拂つた猛火に襲はれ、九月一日の夜に及んでさしもの大伽藍も遂に焼落ちた。小園は同じく焼失した其鐘樓である。この外、海蔵寺、誓願寺、法恩寺も焼失した。



What remains of Higashi Honganji Temple, one of the famous old temples of Japan, near Asakusa Park.

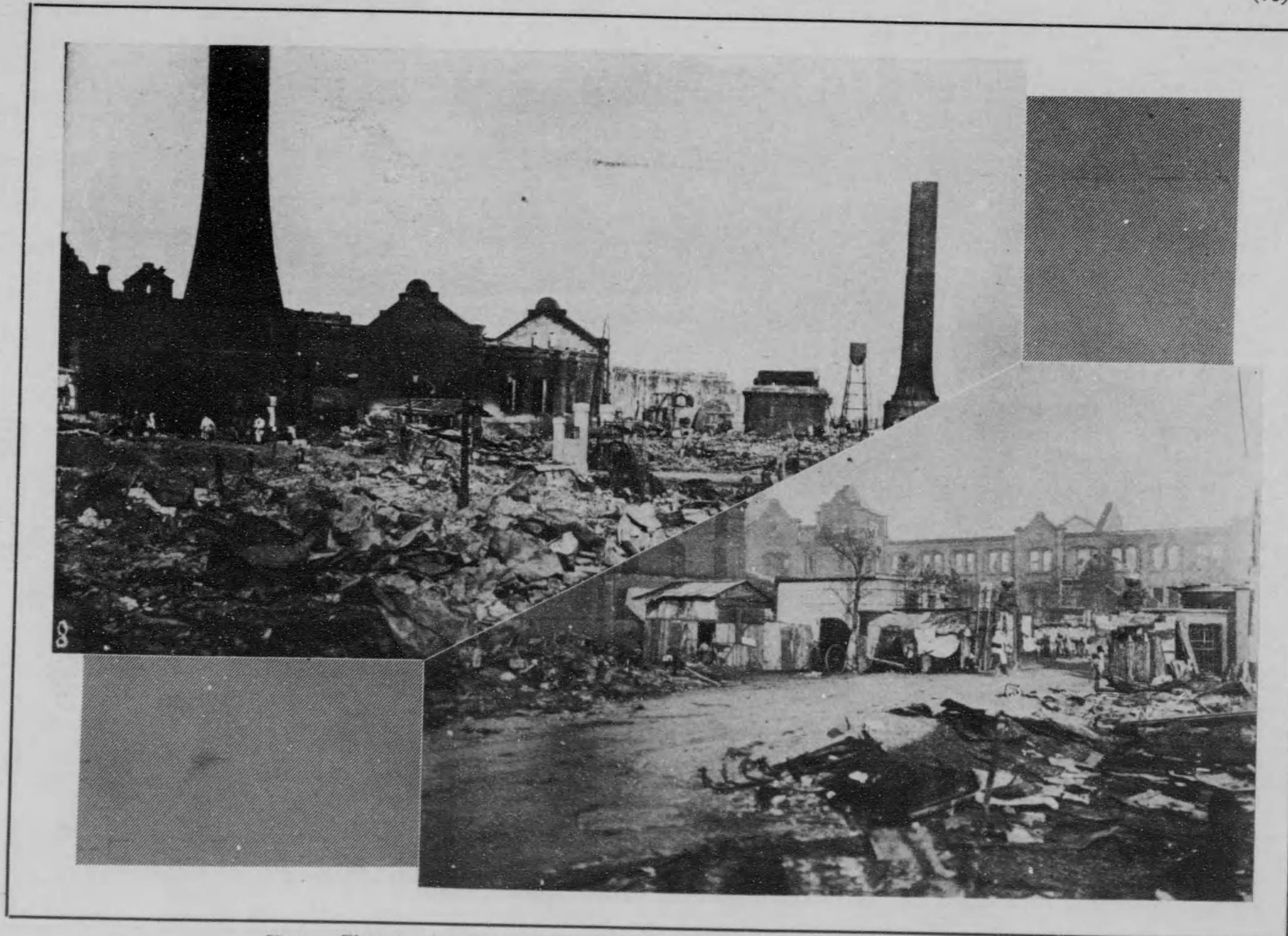


Devastated remains



前 藏 草 浅

(70)



地震と共に浅草須賀町及び蔵前より舉がった火の手は、馬道方面の猛火と呼應して漸次宮戸川の沿岸を燒拂いつゝ附近寄つた。かくして、蔵前の高等工業學校、煙草專賣局、電燈會社等の大建築が灰燼に歸した。悲惨な極めたのは駈橋が燒拂ちたときで、約三千の人々が水中に溺没したと言ふ。上圖は電燈會社、下圖は煙草專賣局の燒跡である。

Upper: Electric Company at Kuramae, Asakusa Ward. Lower: Remains of I.J.G. Monopoly near the former.





災後の淺草橋電車交又點附近の雑踏である。火災の當時この附近には各方面よりの避難者が密集したが、火勢急なるに及んで大混  
 亂を呈し、終に多數の焼死者を生じた。車、自轉車等の金輪の夥しく焼失されて居るのは運び出した家財を遺棄した當時の混亂を  
 物語るものである。小圖は美倉橋附近の船中に於ける罹災民の生活である。



Upper: Near Asakusa-bashi Bridge, crowded with refugees.

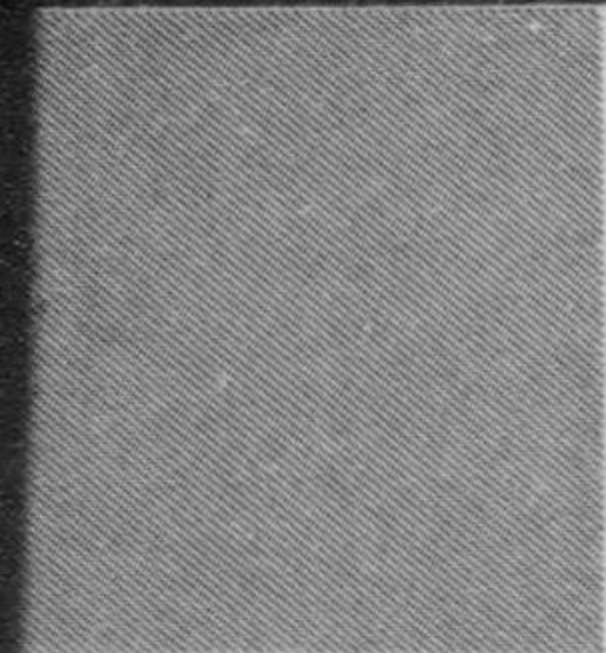
Lower: Refugees boats Near Mikura-bashi Bridge.





Azuma-bashi Bridge, which was under reconotruction was burnt down together with a temporary bridge span for the purpose.

吾妻橋は當時恰も架替工事中であつたが、本所淺草兩岸の猛火に挟まれ、僅に鐵骨のみを残して電車用の假橋と共に燒落ちた。電車軌道は船の如く燃れて水中に落ち、火熱に堪へずして隅田川に身を投ずるもの、陥つて溺没するもの等死者續出す、此世からなる地獄の光景を呈した。橋畔から仰いだ待乳山の翠微は幕の如く燒爛れてゐる。





兩國橋と新大橋とは共に残つたが、何れも日本橋・本所兩區の火に攻められた爲め、橋上に避難した人々は焦熱地獄の苛責を受け、多数の焼死者を生じ、橋下には無数の死體が漂流する等其慘狀は言語を絶した。上圖は兩國橋、下圖は其橋畔より望んだ對岸瓦町・須賀町・等淺草方面の燒跡である。



Upper: Ryogoku-bashi Bridge, one of the two bridges over the Sumida which were not burn. Seeing the vicinity of Asakusa from the same bridge.



Azuma with a



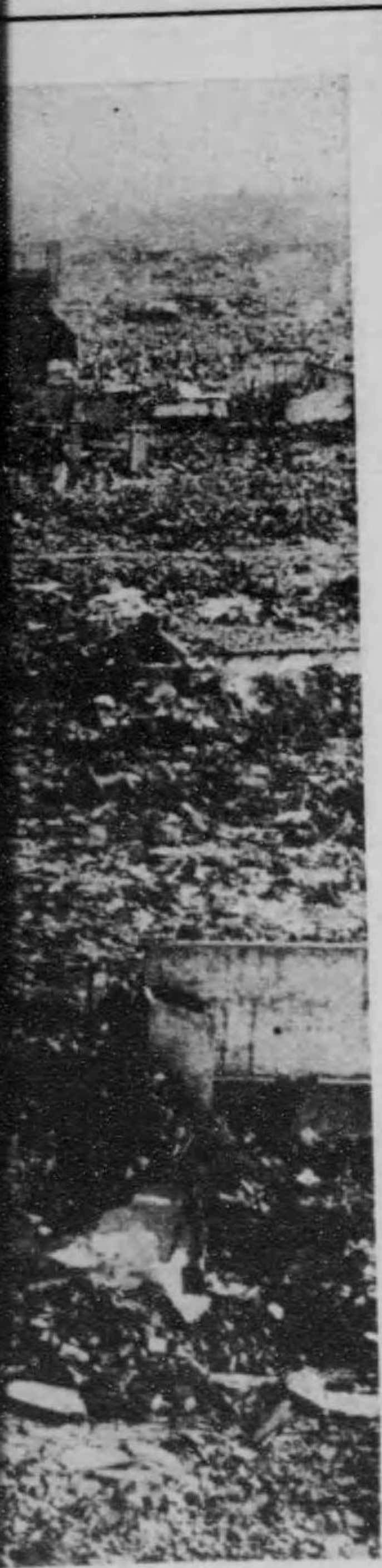
橋代永るせ破大失焼

(74)



京橋、深川両方面の避難者によつて永代橋は瞬く間に埋められた。然るに火は兩岸から次第に迫つて遂に橋桁に移つた。橋上からは人が雨の如く水中に降つて、やがて無数の死體は大川を埋めて浮上つた。その陸鼻を極めた事實が起つたのは九月一日の夜九時頃であつた。寫眞は永代橋と其橋脚電車橋の燒跡である。

Eitai-bashi Bridge over the Sumida, Broken and burnt. All refugees on the bridge fell down like a shower into the water when it was on fire.





宮天水と通町形人

(75)



人形町通りとは日本橋、堺町、蠣殻町附近の俗稱で、晝夜股盛を極めた商業街であるが、今はたゞ隣接各町と共に满目荒涼たる焦土と化してしまつた。此附近は水に近いため意を安心して逃げ遅れ、各橋梁の焼失に逢つて悲惨な焼死を遂げた人々が少くない。小圖は賽者の多い點に於て芝の琴刀比羅神社と對比された水天宮の焼跡である。

Near Ningho-cho, very flourishing spot in Nihonbashi Ward. Smaller: Remain of Suitengu Shrine at Ningho-cho.

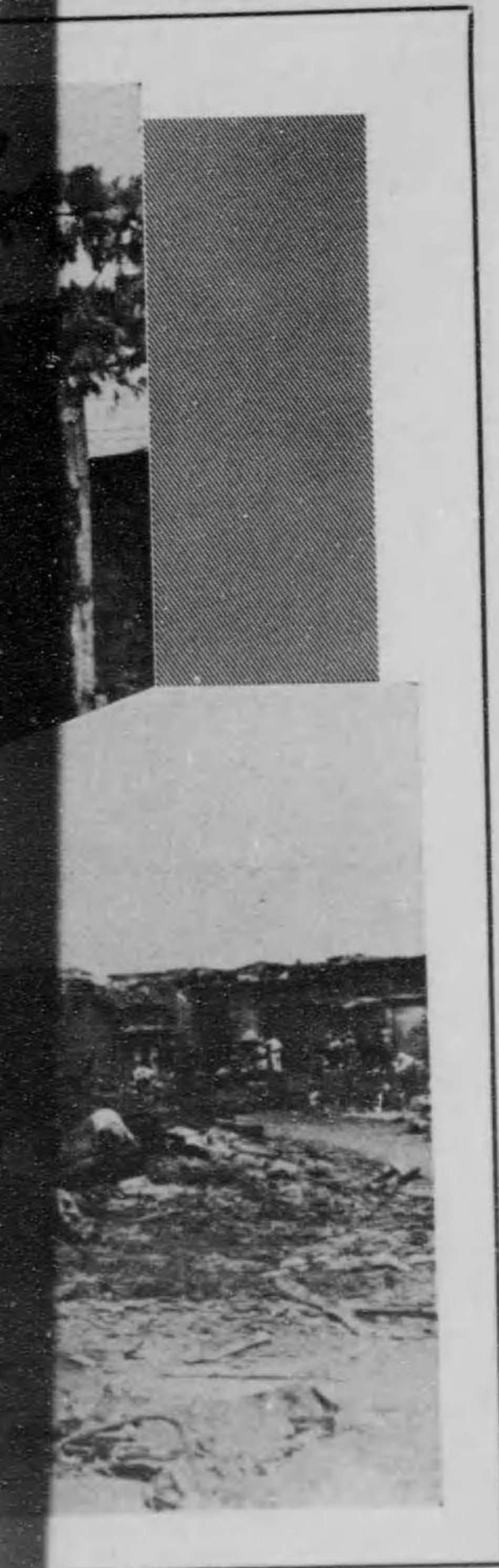






Kokugi-kan at Rygoku, Honjo Ward, Tokyo. It was near hear that the most tragic accident at Hifukusho happened.

災害地中第一の酸鼻を極めた本所被服廠跡に近い相生町附近の焼跡で、此處にあつた相生警察署の署長山之内秀一氏は、多数の死者を生じた責を負ひ被服廠跡に於て自刃したと傳へられる。隣接松坂町に在る國技館は、外觀だけが蜂の巣の巢の様な形に残つて内部は悉く焼失した。此附近一帯の住民は殆ど被服廠跡で焼死し、各戸の焼跡には知巳親戚によつて卒塔婆が立てられてあるのも悲愴である。



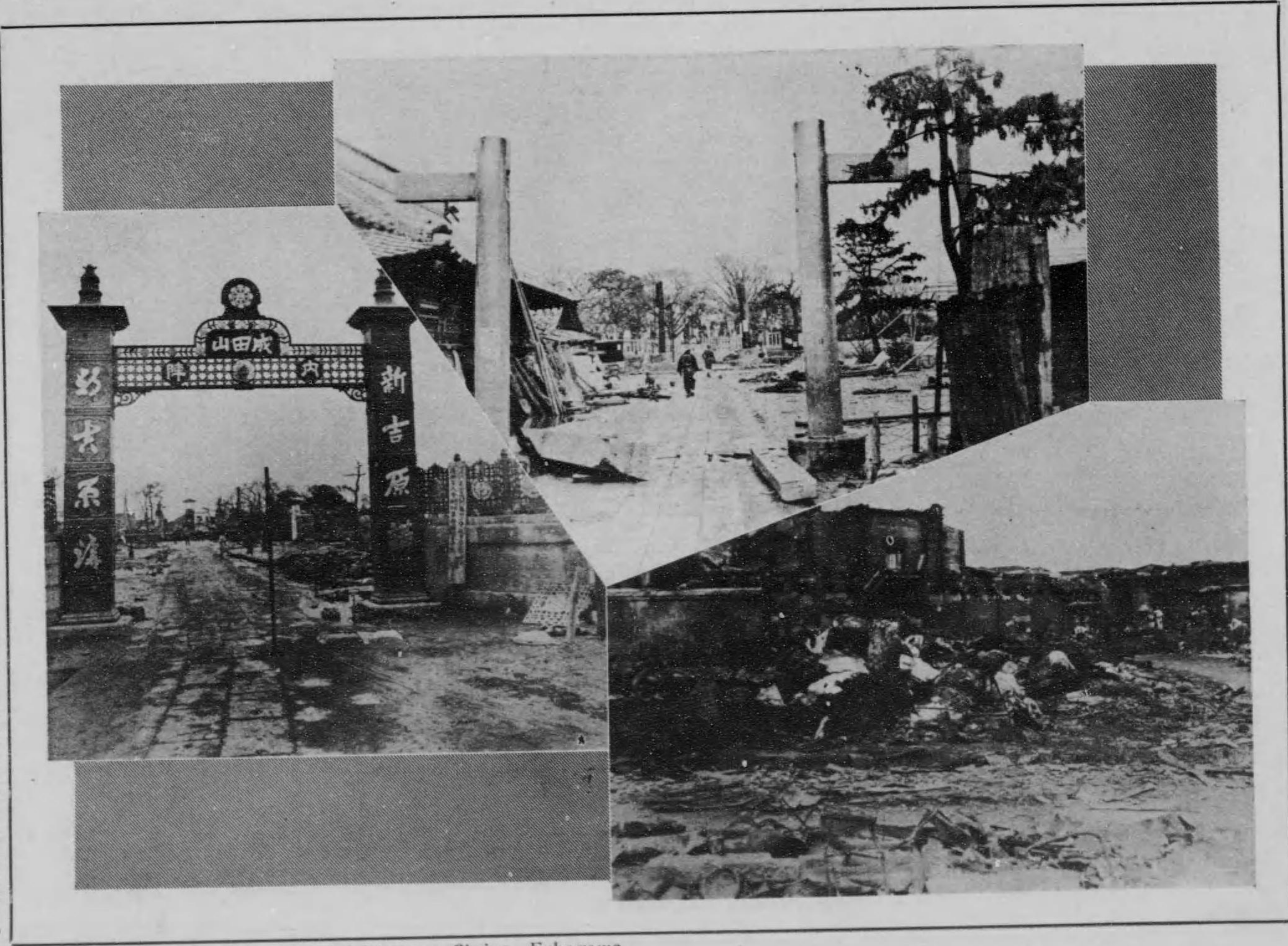
Ward, Tokyo.



堂動不と宮幡八川深

(77)

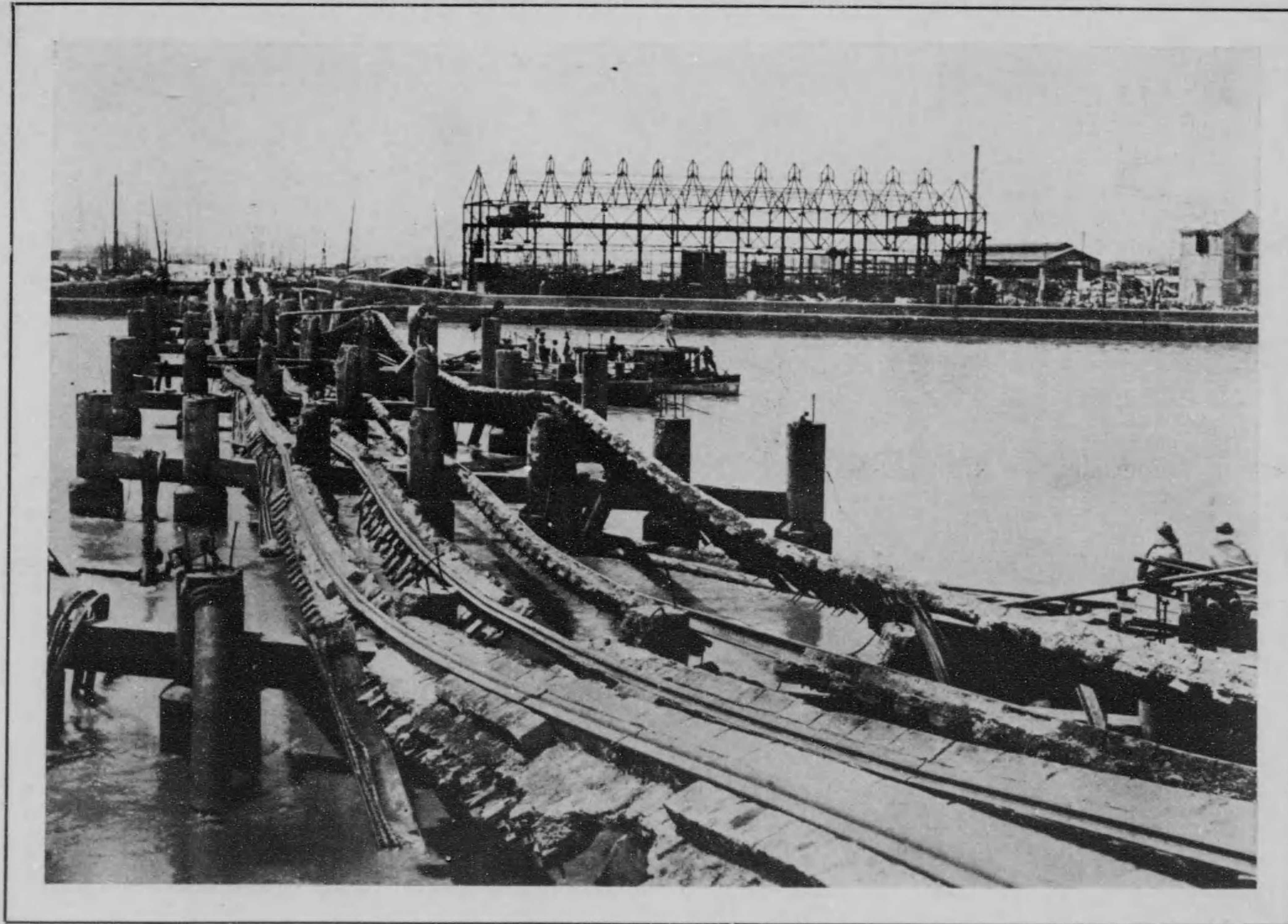
本所に次いで凄惨な極めたのは深川區の被害であつた。震後間もなく全區は火に包まれ、住民は海へ向つて奔るの外殆ど途なく、つぶさに水火の苦みを味つたのである。面積一萬九千坪を有する深川公園も遂に猛火に侵され、園内の富岡八幡宮、不動堂何れも焼失した。上圖は八幡宮、右圖は不動堂、下圖は西方黒江町附近の總動である。



Upper: Ruins of Hachimangu Shrine, Fukagawa.  
Middle left: Fudo Temple, Fukagawa. Lower: Mass of debris at Kuroe-cho, Fukagawa Ward, Tokyo.







東京一の長橋相生橋は深川・月島の兩岸から延びた。猛火の爲めに全く焼け落ちた。橋の中央に三百餘坪の中の島がある。橋上に  
 進退を失つた一萬の避難者は其處へ雪崩込んで九死に一生を得た。月島は京橋南小田原町からの飛火が縦横に燃焼がり、佃町の  
 角と同島西端無住の一帶とを残したのみで、事實同島は全滅したと同じである。

Aioi-bashi Bridge between Tukishima ilse and Fukagawa burnt down.

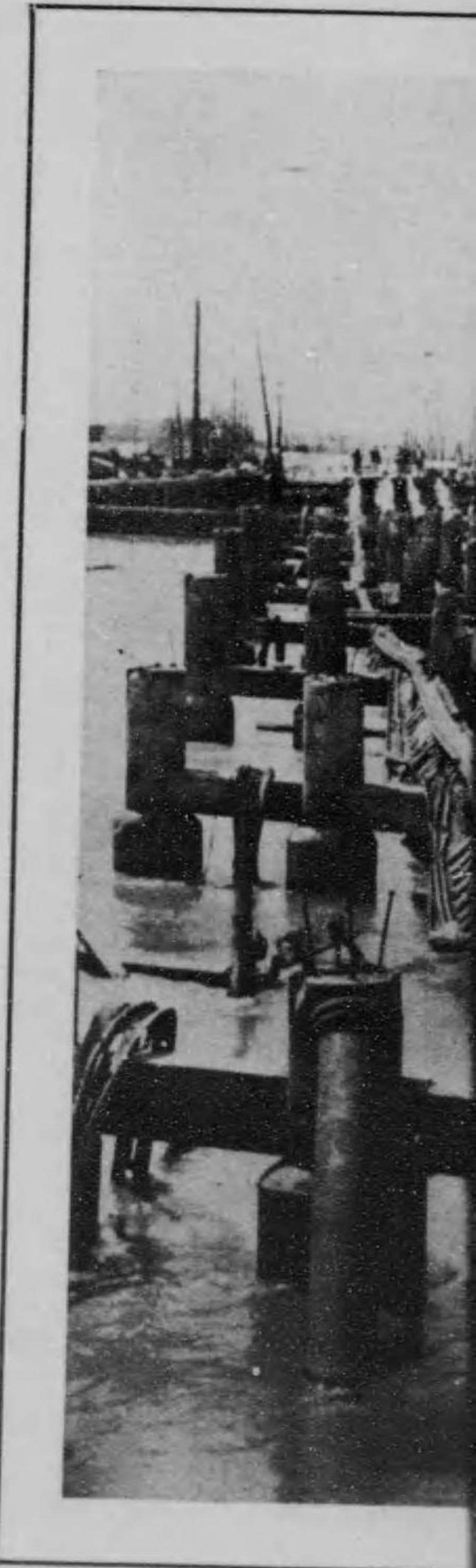




洲崎遊廓は海岸の脆地にあるので、地震による家屋の倒壊、壓死頗る多く、非常の混雑を呈して居る處へ、辨天町一丁目、二丁目より同時に発火し、廓内全部は須臾にして焼失した。多数の藝妓及び娼樓の使用人等は悲鳴を擧げつゝ埋立地へ避難したが、火勢急にして焼死した者も多く、洲崎署管内に於ける死者五百名の大部分は此廓内の者である。



Ruins of prostitute quarter at Susaki, Fukagawa Ward, Tokyo.







東京府下各町村の焼失家屋は通計八千六百餘戸で、其被害は主として市の北部と江東である。火災は市内に比較すれば僅少であると言へるが、震害に到る甚しかつた。圖は南葛飾郡砂町に於ける倒壊家屋である。此附近は海に近い脆地のため倒壊傾斜した建物が殊に多い。隣接深川區の飛火によつて八左衛門、永代、元砂の諸字は何れも火災を起した。

Collapsed houses at Sunamachi in eastern suburb of Tokyo. Being frail ground near the sea here, damages from shock were greater than elsewhere in Tokyo.



Agreat



不夜城新吉原遊廓は地震と共に廓の内外を火に包まれ、大風高樓悉く焼落ちた。避難者は潮の如く一路吉原公園へ逃れたが、たちまち吉原病院の猛火に迫られて池中に落込み、水に溺れ火に焼かれ、血の池地獄の光景を現出した。娼妓二千五百餘の内半数は皆死し、其他の者を加へて廓内の死者は二千餘に上つた。小圖は妓樓角海老の焼跡である。



Devastation at Yoshiwara, well-known prostituted quarter in Tokyo. A great number of prostitutes burnt to death here.



Collap  
near t





千住瓦斯タンクは濃草方面よりの火の手が迫ると共に、爆破の危険と被害を慮り、槽内の瓦斯を全部空中に放出して危機を脱したが、之によつて火は更に勢を加へ、見る間に附近の一帶を焼拂つた。千住中組、南千住の地方橋場、千住南、三の輪、三河島町等附近の工場地帯は何れも焼失した。

Gas-tank at Senji, Tokyo, trying to get out of the danger of explosion by evolving gas in the tank, stimulated fires on the contrary.





(83)

大森の倒壊家屋

品川以西神奈川に至る海岸地帯は、火害は免れたが、地震概して脆弱なため、大森の如き海浜寄りの家屋の倒壊斜傾したもの多数に上り、大地は各處に龜裂を生じた。圖は大森住宅地一部の倒壊家屋である。



Collapsed houses at Omori, southern suburb of Tokyo.

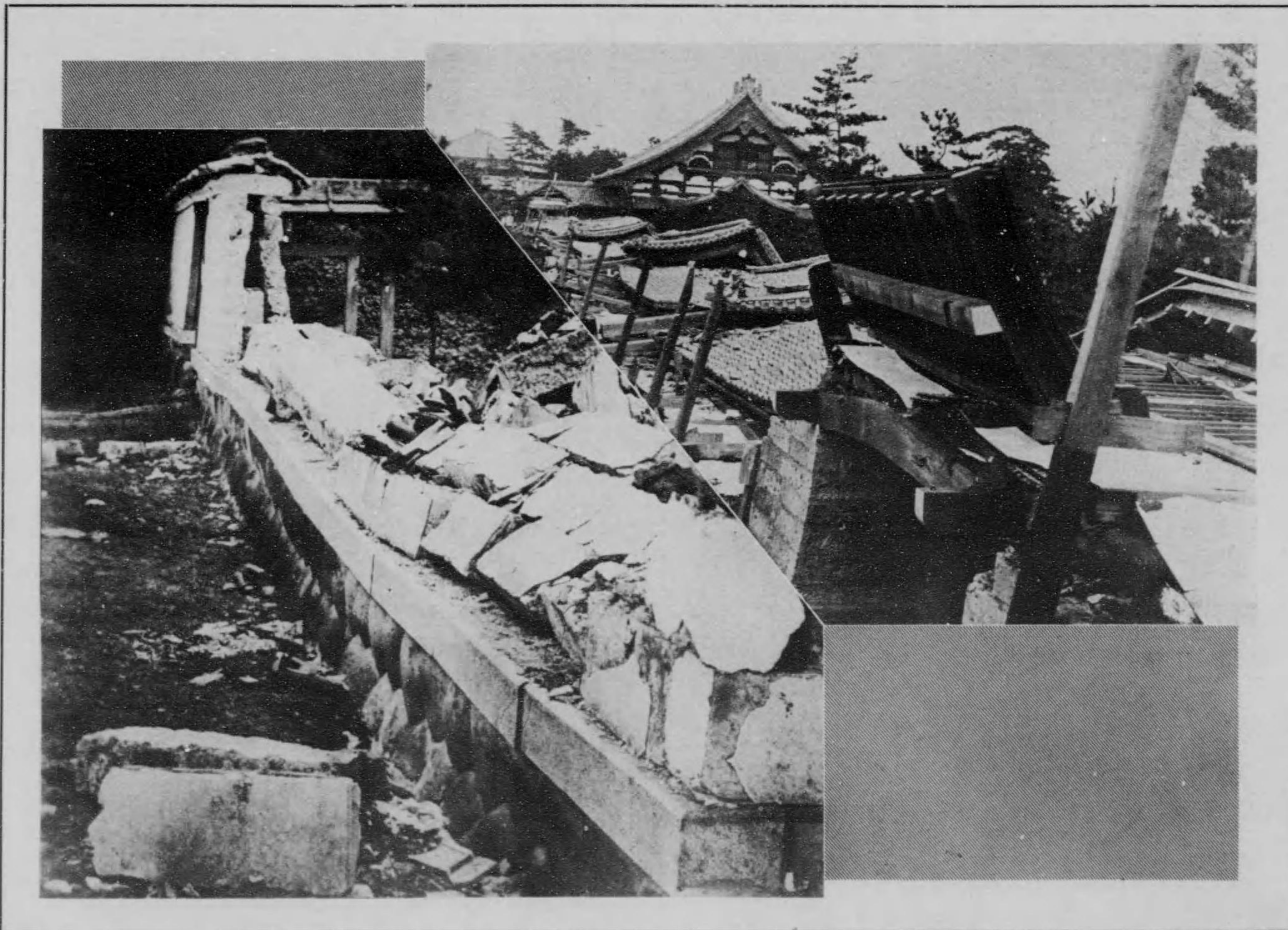


Gas-tank  
gas in t





31. Tsurumi near Yokohama, collapsed.



Half among twenty houses collapsed and another half broken, but fortunately none priests killed. Lower: Wall of the temple in ruin. Upper right: Surrounding passage of 85 ken long.

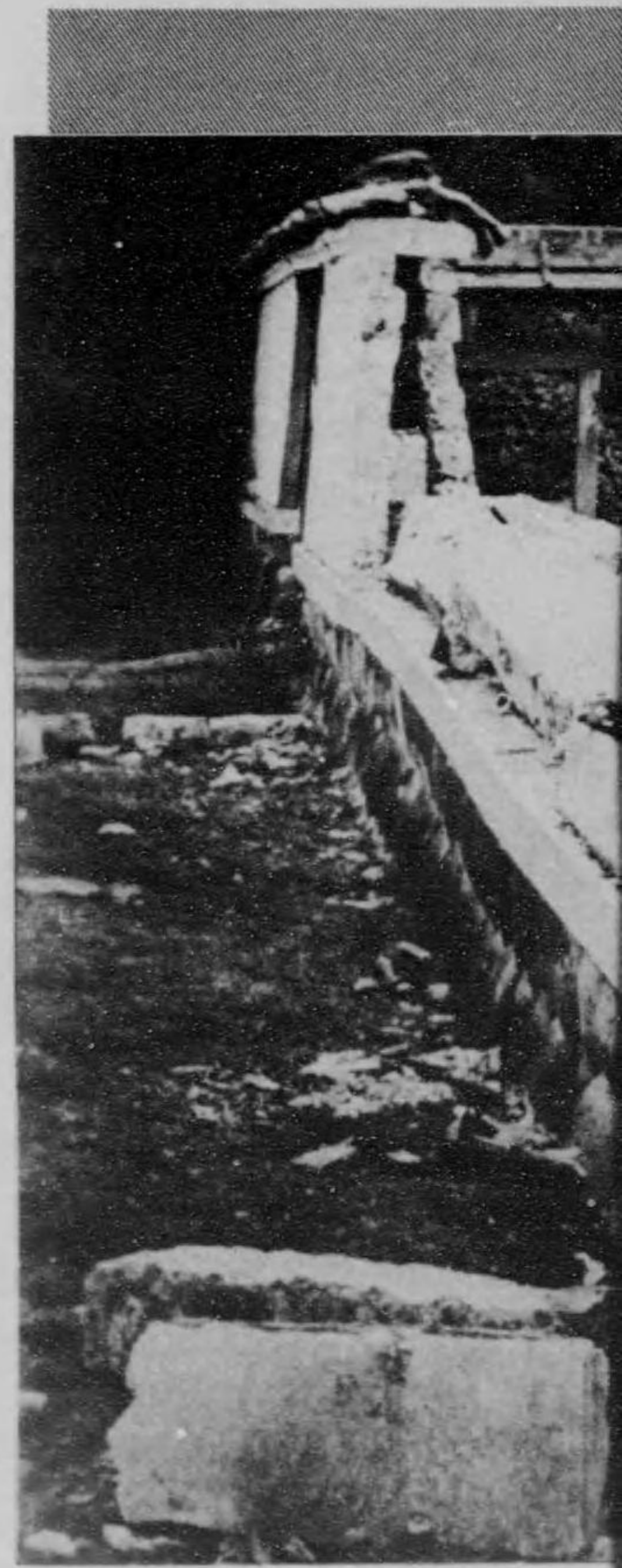
十数年前工費一千萬圓を以て建築に着手し、大正十三年の宗祖大遠忌までに完成の豫定であつた神奈川縣鶴見の巨剎曹洞宗大本山  
總持寺は、全山二十餘棟の大伽藍中、大風館、石造大倉庫、寶物堂、位牌堂、第一接賓、西役寮は全潰し香積堂、東役寮、小庫裡、



跳龍室、尼僧寮、曲座室、再建本部は半潰し、僅に紫雲堂、佛殿、放光堂、常照殿、座禪室及び鐘樓の六棟を残したのみである。當時一山の僧侶は佛殿に参集してゐたので、一人の死傷もなかつた。右圖上は長さ八十五間の同寺廻廊の大破、下は門扉の崩壊、左圖は全潰した位牌堂である。



Damages of Sojiji, a grand temple of the Sodoshu sect at Tsurumi near Yokohama.  
Left: Ihaido, the hall of ancestral tablets, completely collapsed.



Half among twenty houses collapsed a  
Lower: Wall of the temple in ruin.





六郷附近で地震のため省線及び京濱電車の鐵橋が破損し、橋脚には何れも大龜裂を生じ、東海道線は一時不通と成つた。六郷橋は三尺餘も低下彎曲したが危く墜落を免れた。圖は同所附近に於ける堤防の龜裂で、小圖は倒壞した六郷藥師堂の山門である。

Fissure on the bank of the Rokugo River near Rokugo bridge, Tokaido.  
*Smaller:* Yakushi-do Temple near Rokugo.



Images.



川崎大師の鐘樓

(87)



大師を以て名高い六郷西岸の一名利川崎平間寺は、その結構淺草觀音堂に劣る殿堂であるが、山門、本堂其他境内の諸建築物は、淺草觀世音の無事なるにひきかへ、何れも大破するの被害を被つた。畢竟、東京よりも震源地に近く、加之地盤軟弱なるの故に外ならない。圖は倒壊した同寺の鐘樓である。

Bell-tower of the Daishi, famous temple at Kawasaki, also suffered a great damages.







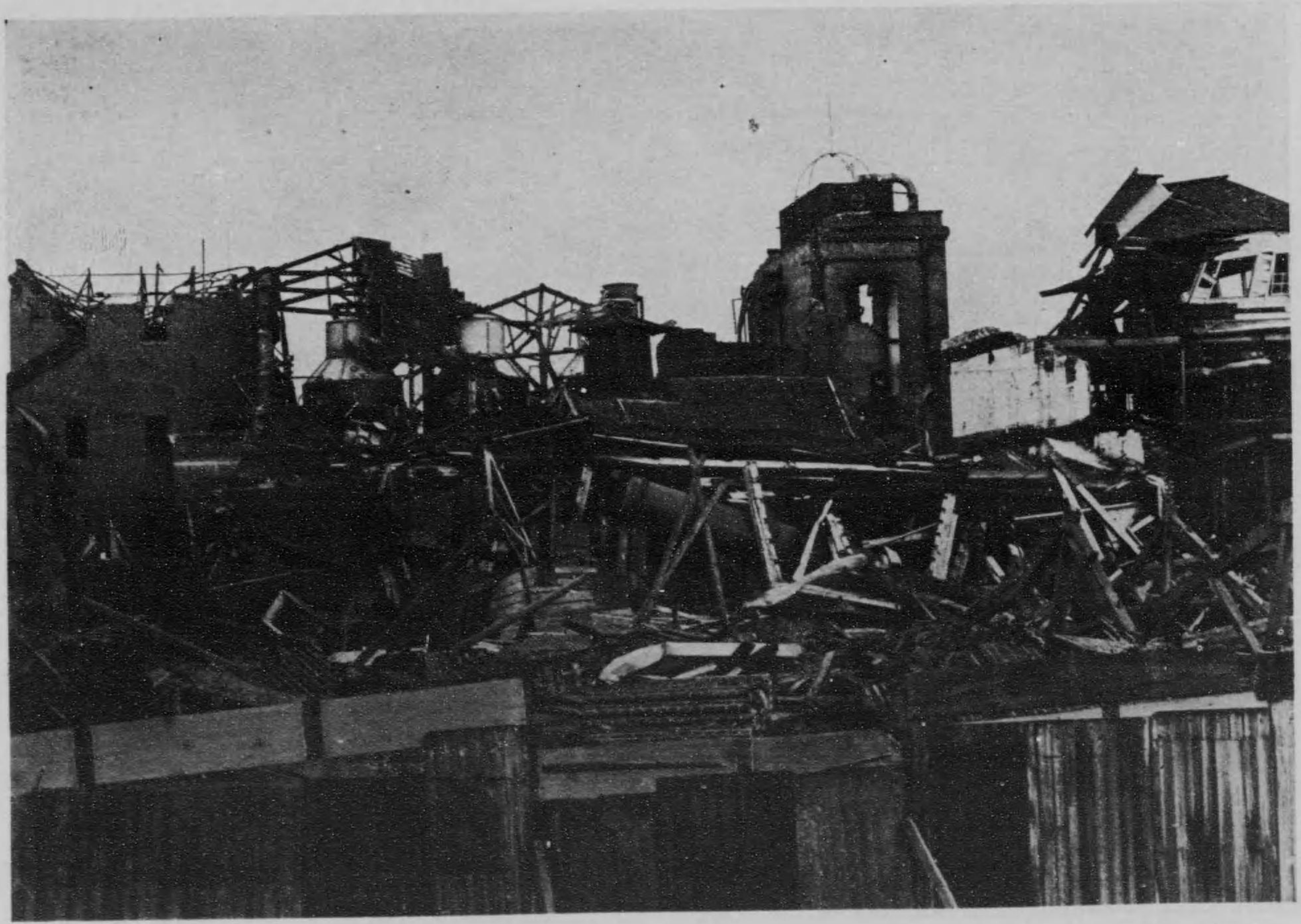
川崎附近の震害は東京電氣、明治製糖、淺野セメント、日本蓄音器、日本網管、富士紡績等の大會社工場及び民家の倒潰二千五百餘戸、半潰約五千戸、死者三百餘、傷者一千餘名と言ふ概算である。就中酸鼻を極めたのに東京電氣、富士紡績の兩工場で、社員男女工四百名が下敷となり、その半数は無残の屍死を遂げたと言ふ。右圖は松竹キネマ川崎館、同小圖は技師長以下多数の死者を

Right: Kawasaki-Kan one of Kinema theater of Shochiku Company.  
 Smaller: Warks of Tokyo Electric Light company, where great many workers cruched

panies collapsed.



出した東京電氣工場、左圖は明治製糖工場倒潰の慘狀である。附近鶴見より生麥に至る海上には、横濱神奈川方面より流出した石油、機械油等が一面に漂つて魚介を殺したので、沿岸の漁民は立所に失業して糊口に窮した。



Devastation at Kawasaki where many works of large companies collapsed.  
Left: to death. The works of Meiji Sugar Refining Co.



Right: Kawasaki-Kan one of  
Smaller: Works of Tokyo El





流行洞穴守稻荷によつて名を知られた羽田村は、多摩川の河口東岸に位し、近年は海水浴場等も設けられた東都南郊の一散策地である。この附近は海岸を埋立てた脆地なので震害は一帶に激甚を極めた。圖は墜落大破した穴守稻荷橋京濱電車の橋梁である。

Ruins of Inari-bashi Bridge on the Keihin Electric Car line at Anamori.



災後所見





### 再生二生の老人

神田區表神保町に住む工氏と老人は、第一震で家屋が倒潰し、下敷となつて急を呼んだ、三十分立つても一時間立つても救ひが来ないので、もう覺悟をする外なかつた。處がその後漸く巡查や在郷軍人の救援で引出され、命拾ひを喜んで近所で静臥してゐると傍からこんどは火の手が上つた、命からくも親類見當てに逃げ出したが廻つても火に向ふので終に追はれて反對の側へ逃れたが、行手の神田橋が焼落ちて行場がない、思ひ切つてお濠へ飛び込んだ、水が暖まつてゐる程の暑さの上火の子が盛に降つて来る、その中溺死體が流れ寄るなど再度覺悟の止むなきに至つた、所へ昔噺しに有りそうに蒲團が一枚流れて来た、天祐なる哉、早速その濡れたのを頭から冠つて、一夜中濡らしては冠りくして危く助かつた。

### 十年の腰ぬげが立つ

本郷の或下宿の女將、血脚氣でもう十年間足腰が立たない、名醫にもかゝれば入院もする、加持祈禱から八野、占ひ迄ありと有らゆる方法を試みたが皆くれ效驗がなかつた、今度の第一の激震に、家中の者は皆戸外へ飛出したが、自分丈けは體を起したきり仕うにも仕方がない、極度の不安にもう生きた心持もなく、切めて父母の位牌丈け取出して逃れたいとの一念から、佛壇へ這ひ寄り辛じて伸び上る折から、第二の激震……アツとたまざる途端不思議や彼女の足が立つた、早速位牌を懐にして危く逃げ出した、同家は幸ひに焼け残つて爾來歩行に差支なく、彼女は嬉し涙に暮れてゐると。

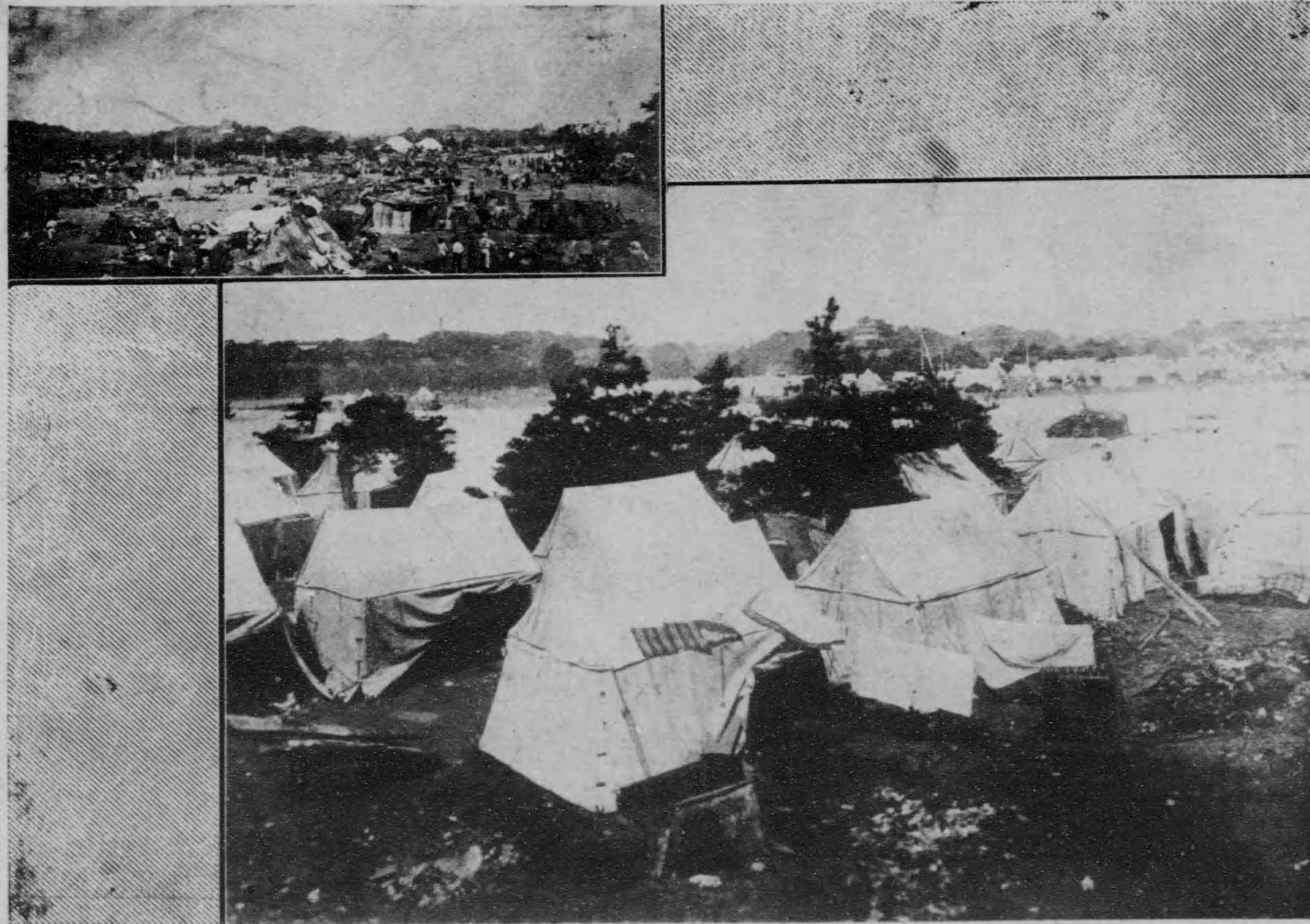
### 火事の火と蠟燭の火

本社の同業者本郷の工氏は、向ふ側は焼残つたほごに自宅に火の迫つた時も相當に荷物の出せた方であつたが、尙兩親の寫眞を取出し度いと思つて隣家は焼けてゐるのに駆け込まうとする、通りかゝりの人が危険だと注意して戸外に立番をして呉れた、停電の中とて蠟燭を手にして戸棚を捜したが、あわてゐるので中々見當らない、蠟燭を何かの上へ突立てて、此時になつてもまた商品が可愛くて、足を爪立てく差込んでアチコチ尋ね廻つたが見當らぬ、その中に例の立番先生「もういけない火が付いたあぶないく」と連呼するのであたふた飛び出さうとする、「蠟燭があぶない」と呼んだので、自分も又驅け戻つて蠟燭を持ち出した、後で考へて見ると自分の家へ火が付いてゐるのだに。





猛火が帝都の大半を包んだ九月一日の夜、宮城二重橋の廣場は避難する群衆で埋まつた。災後、頼るべき處のない多數の罹災者は、其處に雨露を凌ぐべく焼跡の亞鉛板を以て假小屋を急造した。九月五日頃には人口二萬餘を數へたが、月末には約三千に減じ、燒亞鉛板の假小屋は天幕に代へられた。小圖は避難當初の假小屋である。



Larger: Sufferers having no house camped in front of the Imperial Palace. Smaller: Refugees temporary huts built at the time of disaster.

ぶない」と呼んだので、自分も又騙け戻つて  
蠟燭を持ち出した、後で考へて見ると自分の  
家へ火が付いてゐるのだに。





大震大火、而して其後には飢饉が罹災民を襲つた。戒嚴令下に出動した軍隊の活動は頗る目覚しく、災害地域の警備に任ずると共に罹災民の醫療及び救護に力を盡し、各所に炊出しを行つて多數の罹災民を飢渴より救つた。圖は上野自治會館に於ける軍隊炊出しの實況である。

Activities of Army troops, giving boiled rice to sufferers.



Ueno Park.  
the Imperial Palace.



煽は渦を巻いて追り、人に潮の如く走る。其混乱の中で親を失ひ、夫に分れ、子に離れた人達は数限りもない。生残つた人々の涙で書かれた尋ね人の文字や、親戚知己の安否を求める貼札が災後たる所澤山に見られた。圖は上野公園入口、小園上は西郷翁銅像、同下は楠公銅像に貼られた尋ね人の札である。



Placards posted every where in order to give information about refugees. *Larger*: At the entrance of Ueno Park. *Smaller above*: On the statue of Saigo, at Ueno Park. *Smaller below*: on the statue of Nanko, in front of the Imperial Palace.







災後都を離れて郷里へ歸る者は夥しく、一時總數百萬を突破した程である。然るに東海道線は沿岸一帯の大被害で交通不能と成り、海軍は軍艦を品川沖に派遣し、海運會社は大れ／＼汽船を芝浦に送りて避難民の輸送に努めたが、東北、信越、中央各線の發着驛

Refugees were willing to leave Tokyo anyhow to their native province. Refugees at Shibaura waiting for ships.



と共に日夜戦場の如き混雑を來し、列車の如きは窓外も屋上も人を鈴生りにして發車するの奇觀を呈した。東北線浦和駅附近では、列車の屋上に居た五十餘名の避難者が陸橋に衝突轉落し、何れも重輕傷を負つたと言ふ。右圖は芝浦、左圖は東北本線日暮里驛に聚集して歸郷を急ぐ避難民である。



Refugees at Nippori Station, hastening to home by train. Some are here seen on the roof of a train just leaving for safety.



資 物 の 援 救



東京横濱を始め湘南一帯の震害地は、交通機関の破壊によつて忽ち糧道を断たれた。政府は無線電信、飛行機等を以て物資の大供給地である關西各地に向つて救援を求め、同時に非常徴發令を發布し、臨時震災救護事務局を設置した。各港の艦隊は、力を擧げて

readed to Nippori Station. *Left smaller:* Materials for barracks at the same station.





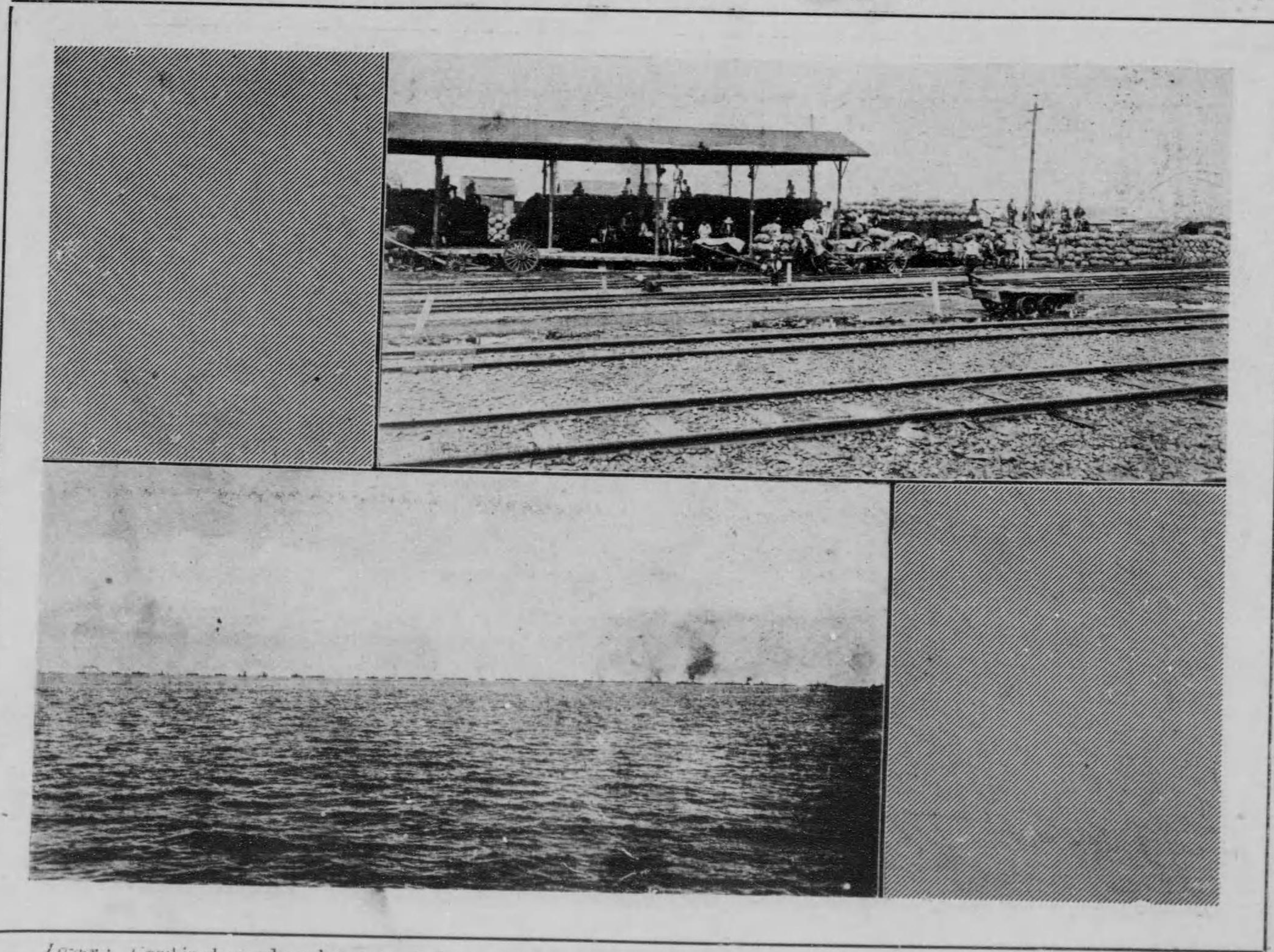
救護、輸送の任に當り、鐵道は旅客を極端に制限して物資輸送に努め、郵船、商船、國際汽船其他も協力して阪神地方より物資輸送の活動を開始した。これに依つて糧食其他の必需品は各地より東京に集中され、大混亂裡に猶克く瀕死の危念を救ひ得たのである。右圖は芝浦に山積された食糧、左圖は日暮里に到着した食糧、小圖は同じくトラック材料である。



Relief supplies has reached in Tokyo. Right: Foods piled high at Shibaura. Left: Foods





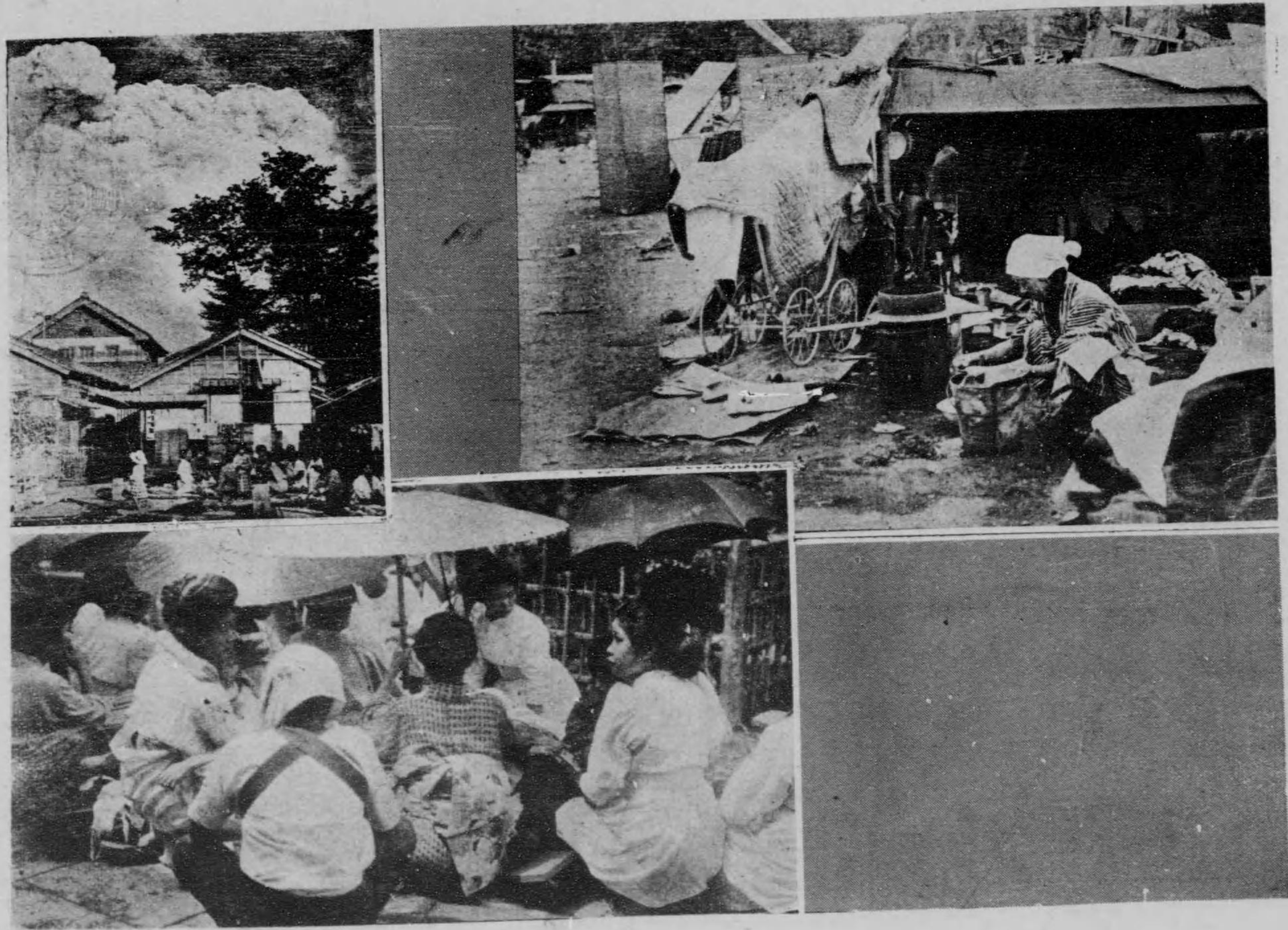


政府は大阪、神戸の物資を軍艦によつて海路東京、横浜、横須賀方面に送り、愛知、三重方面の物資は鐵路伊豆半島に送る救護輸送の大計畫を立て同時に其實行に移つた。圖は海軍大臣の電命によつて豫定を變更し、東京へ急航した帝國聯合艦隊其他食糧輸送の船舶である。上圖は千葉方面より龜戸驛に到着したる食糧。

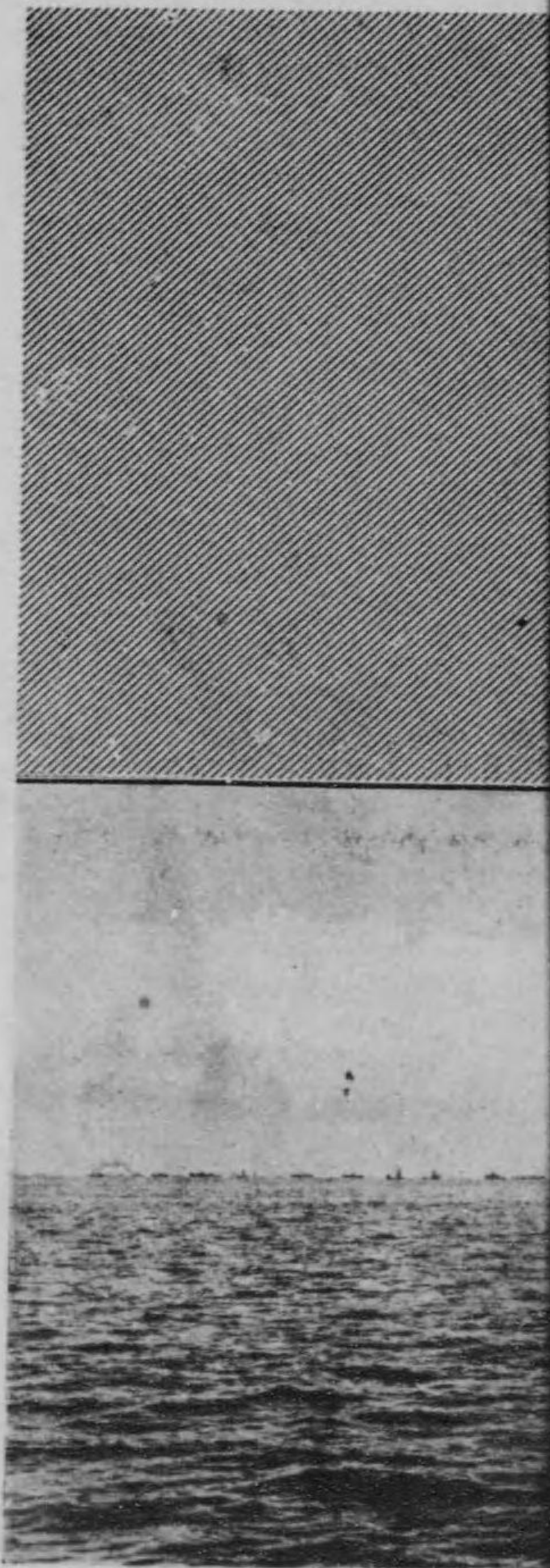
Lower: Combined squadron has come in haste carrying on deck foods and other materials from Kansai district. Upper: foods sent from Chiba Province, piled up at Kamcudo Station, Tokyo.



上圖は震後忍ち猛火に襲はれて家財を失つた避難者、下圖は激震に際して病院が患者を悉く戸外に運び出し、露天の下に醫療看護を行つて居た濱町河岸附近の悲痛な光景である。小圖は餘震中に於ける露宿の有様で、火災を免れた地域の人々も、間斷なき餘震の恐怖に怯えて數日間の屋外生活を續けた。



Upper right: Refugees lost their fortunes by fire. Lower: Nursing the patients on the road. Upper left: Peoples in the safety regions slept out-doors for few days in the fear of occasional earthquakes.



Lower: Combined sq adron





occupied with the Clothing Depot. ... which devouring all things ... for the dead was performed

を者死の千二萬三

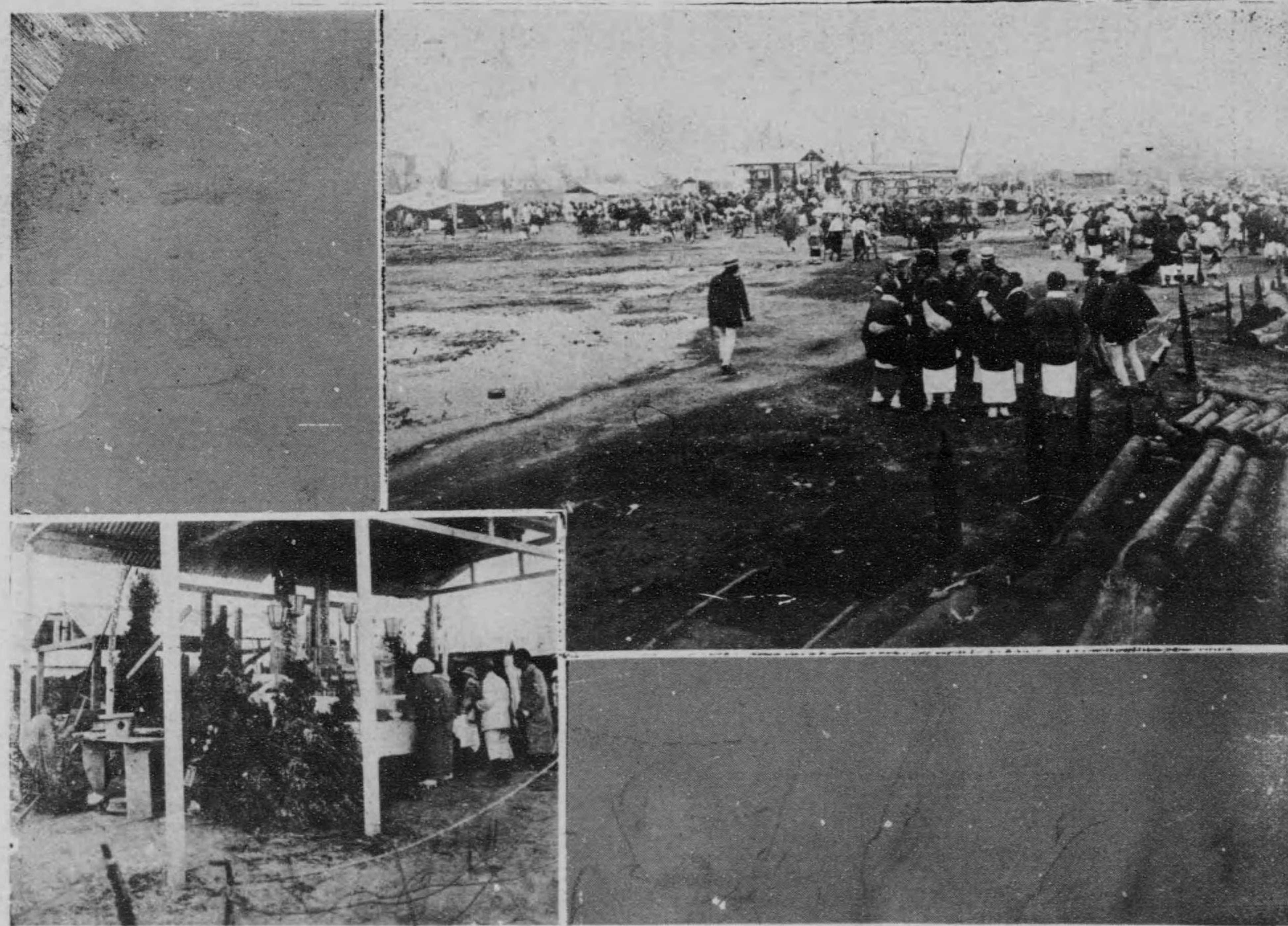


全區を猛火に覆はれた本所區民は、漸次公園廣場等より火に追はれつゝ、龜澤町被服廠跡に集り、廠内五町の廣場は三萬三千に近い人と荷物まで埋められたが、悪魔の如き猛火の旋風が突如として巻起り、大火燄が場内に舞ひ下ると見る間に人も荷物も一躍めにした。斷末魔の悲鳴が嵐の如く湧いて、人は家財や車と共に火團と成つて宙空に飛び、火燄の狂舞が鎮まつたあとには、僅に二百餘

Here, at first mistaken as a safety place, was crowded by peoples with their packages soon after the first shock of the terrible in the spot, deprived of more than thirty-two thousand lives. Upper right: Refugees came in Hifukusho, just a moments before each day following after the pitiful event by all sect alternatively. Lower left. The seat where the services were performed.



の氣を失つて生存者を残したのみで、哀れ三萬二千五百有餘の生靈は累々たる死屍となつて堆積散亂した。この未曾有の大慘事が演ぜられたのは、實に大正十二年九月一日薄暮五時近くより夜の八時に至る間であつた。右上圖は慘劇瞬間に撮した場内一部の避難者、同下圖は廠内臨時火葬場へ茶毘に附した殉難者の遺骨の山である。左圖は同所に於ける死者の追悼法會で、之は各宗交代して連日行はれた。同小圖は其齋壇である。



The most tragic accident was occurred at Hifukusho-ato, a large vacant ground formerly occupied with the Clothing Depot. earthquake, but in the next moment surrounded by fires in all sides, caused huge devilish cyclones, which devouring all things the disaster. Lower right: Ashes of those who died here pill up. Upper left: Memorial services for the dead was performed

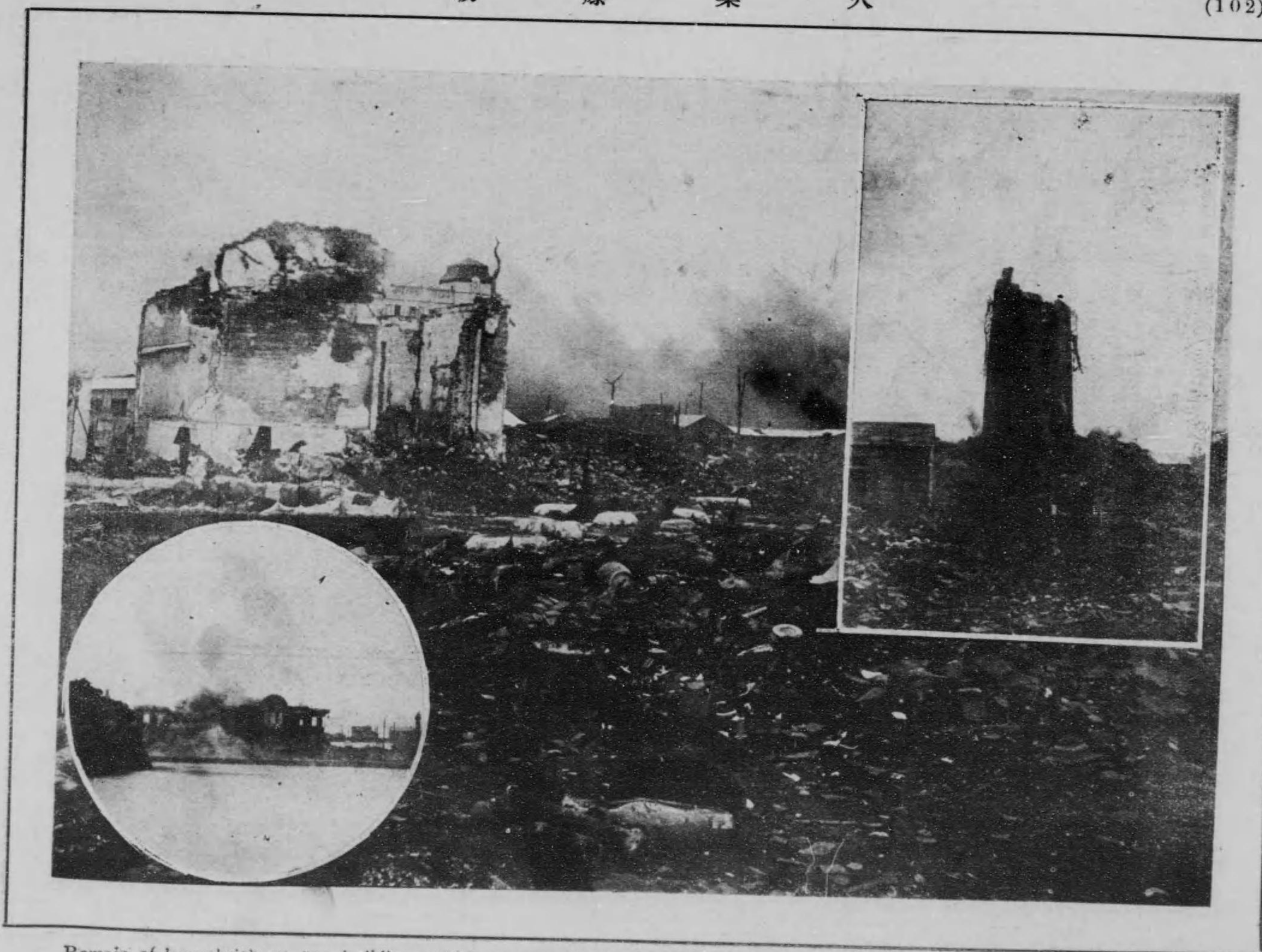


Here, at first mistaken as a safety in the spot, deprived of more than each day following after the pitiful



破 爆 藥 火

(102)



砲兵工廠、印刷局其他地震のために大破し、猛火に内部を焼盡され、全く修復の見込のない煉瓦造又は石造の建築物は、すべて火薬爆破によつて破壊取崩された。上圖は十二階、中圖は警視廳、下圖は浪花電話局で、何れも陸軍工兵隊によつて爆破された利那の破壯を極めた光景である。

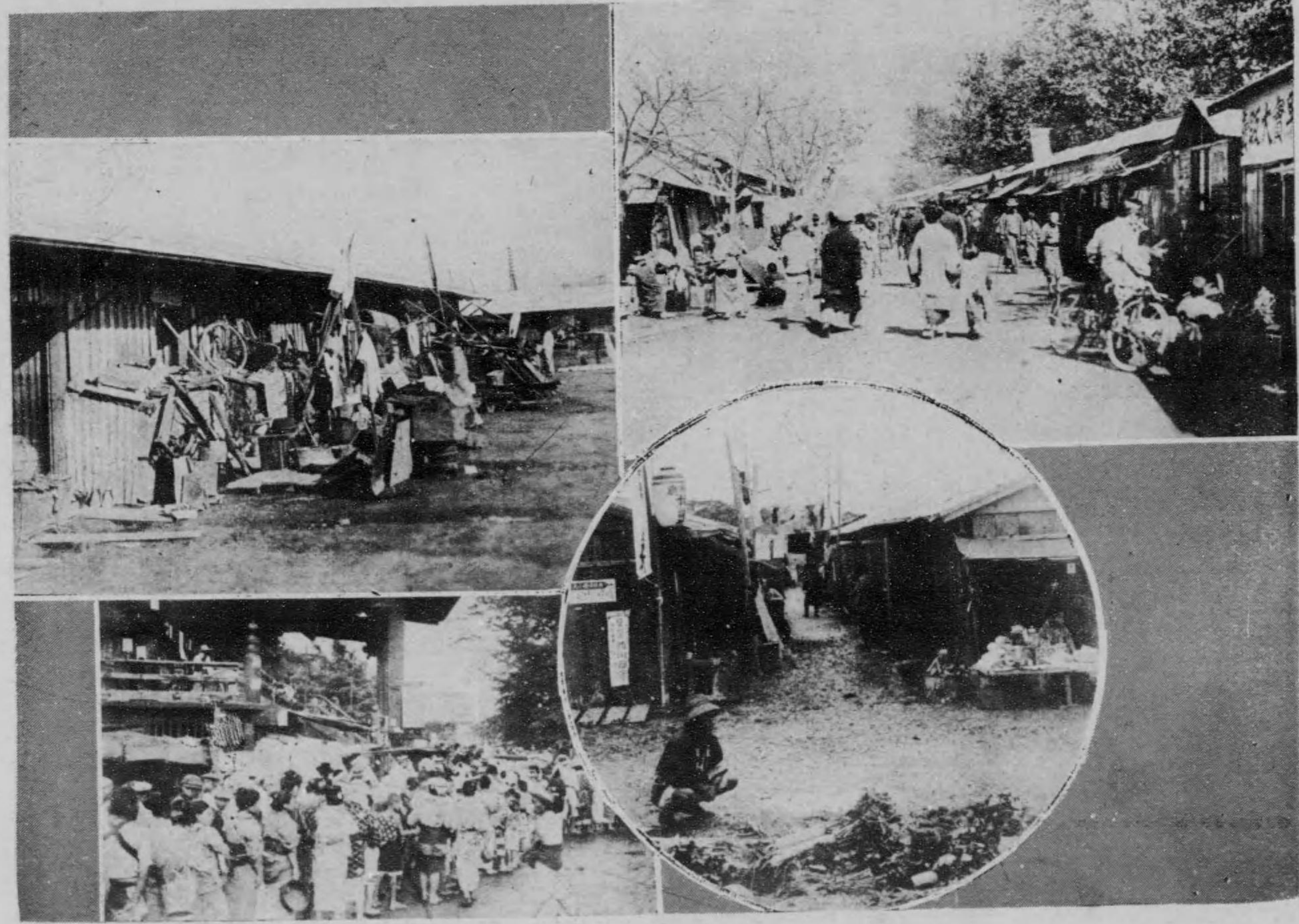
Remain of large brick or stone buildings which were no hope of mairding, were broken down with the explosion of cordite by Army Engineers. *Upper*: Explosion at the 12 storied tower, Asakusa. *Middle*: Explosion at Metropolitan Police Office. *Lower*: Explosion at the Coll-office of Naniwa.



Yamanashi Park. *Lower right*: those at applied rice.



罹災民救助のため宮内省は各御料林の木材を伐採して御下賜相成り、内務省は全国各地の木材を蒐集し、東京に於ては警視廳が市郡の木材を非常徴發する等によつて、各所に澤山のバラックが建設された。上圖右は日比谷公園のバラック商店、同左は横濱公園バラック、下圖右は芝公園バラック、同左は淺草公園に於て配給米を受ける人々の行列である。



After the disaster. I. Upper right: Barracks in Hibiya Park. Upper left: Barrecks at Yokohama Park. Lower right: those at Shiba Park; Tokyo. Lower left: Row of sufferers receiving the supplied rice.



Remain of large brick of Army Engineers. Up  
Loc





災害と同時に失職して糊口に窮した人は十數萬に上り、何れも總跡取片付や荷物運搬の労働者と成つた。それさへ夜中の三時頃か  
ら紹介所に詰かけなければ採用されない有様で、これも震災の生んだ悲慘事である。上圖は横濱居留地、下圖は銀座通りの總跡片  
付に従事して居る俄労働者である。

After the disaster. II. Persons thrown out of work after the accident became suddenly laborers working in the devastated sections.  
Upper: Clearing the remains of ruined houses at the Concession in Yokohama. Lower: at Ginza, Tokyo.



burned houses.



死灰にひさしい災後の巷は、人生に最も必要な商賣から甦つた。第一が食料及び飲食店、續いて靴物、理髪、呉服店と言ふ順序である。日の落ちるまで焦土に物を探る人々の悲惨な姿も隨所に見られた。上圖の路傍理髪店は芝増上寺附近、下圖の焼跡を探る人々は日本橋通三丁目附近の所見である。

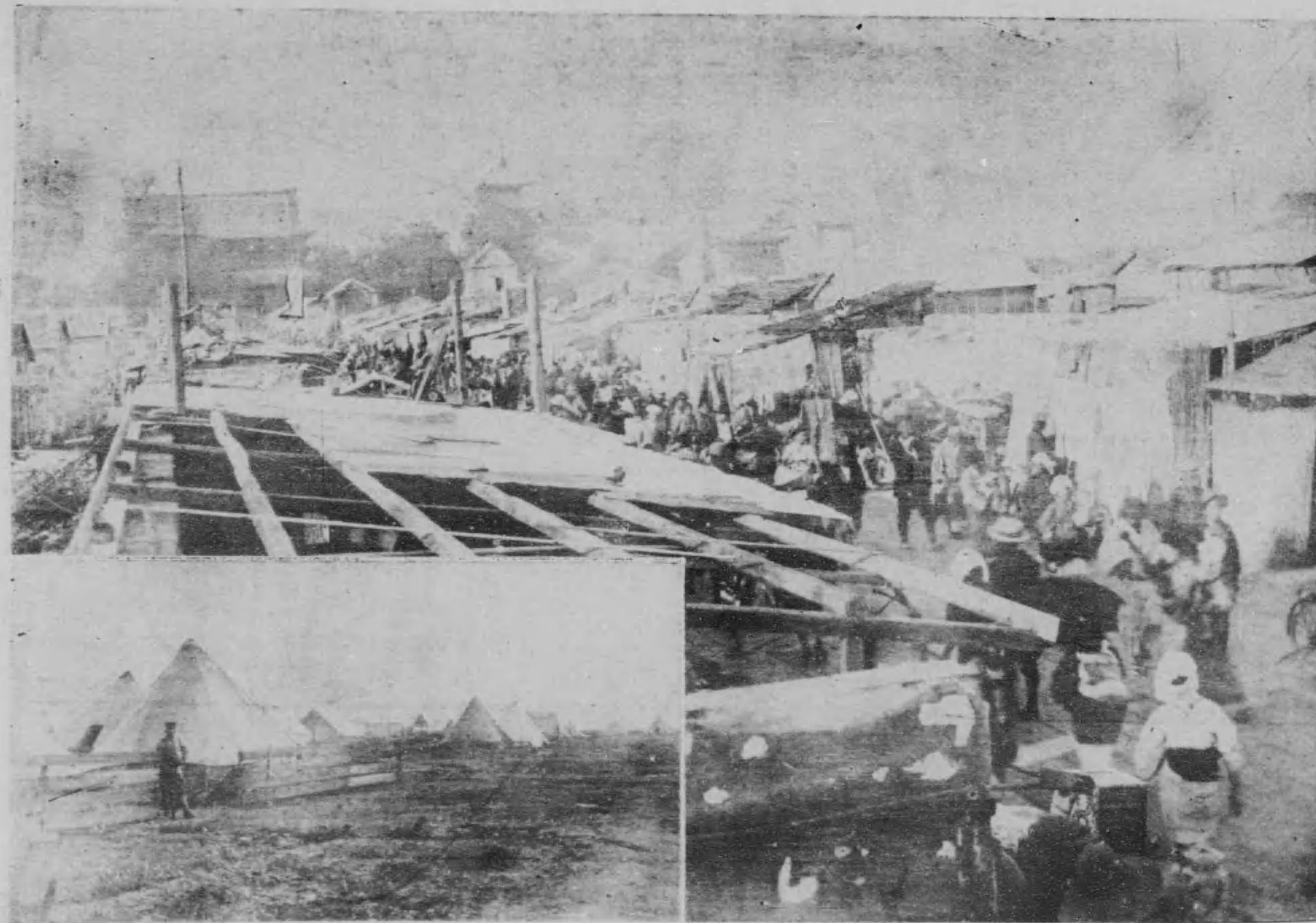


After the disaster. III. Upper: Barbers on the way-side near Shiba Park. Lower: Those who are serching for valuables at the remain of burned houses.



After the disaster. II. Upper: Clearing the remain





昭書煥發により遷都説は消えて人心漸く安定し、復興の氣は焦土の間に賑々張り動き、神田、淺草方面には災後間もなくバラックの商店が建設された。上圖は其第一聲を擧げた淺草仲見世のバラック店舗である。下圖は米國が建設寄贈した麻布館臺坂下のテナント大病舎である。國民は米國の多大な同情を此大震災と共に永久に忘れてはならない。

After the disaster. III. *Upper:* Row of barracks at Nakamise, Asakusa Park, built first among anywhere in Tokyo. *Lower:* Hospital in tents at Sendaisaka, Azabu Ward, which, thanks to America, was built and given by him.



賀須橫及濱橫



After the disaster. III. *U*  
Lower: Hospital in tents at S



### あるぞくご大喜び

小説家の長田幹彦君が一日の正午近くに自動車に乗って加島銀行支店へ預金を引出しに行つた、渡された金を虎の子のやうに抱いて再び自動車に乗るや否やガラ／＼ときてその支店が滅茶々々になつた、腰掛けにベチヤンコと埋つた幹彦君つぶつた目を漸くあげると天地晦冥、飛ぶやうに我家に列上がつて先づ紙入をあらためる見る夢でもない、氣が狂つたやうに有るぞくご大喜びは好運。

### 不幸から出た幸

本年の慶大出にTといふのがある銀座の西洋人の會社に出勤して居たが、支配人に對した位置に席を占めてゐたのゝ新人者である關係から、ソレ地震といつても他の社員の如く早速逃げ出す譯にも行かず、結局夜に入るまで支配人の命の如く立働きの、火の迫つた時立退いてやつと本所の吾家へ向つたが最早橋が落ちて駄目であつた、夫れから上野へ出て公園で一夜を明かした、後になつて分つて見ると家族は當日被服廠跡へ避難したので全滅し、自分だけは生き残つたのみならず、會社では忠實であつたといふので半数切つた首の中は無事につながつた上、見舞金としてタンマリ御褒美が下がつた。

### 日蓮の髭題目

嘗て丸の内の新しい建築の鐵骨に南無妙法蓮華經の髭題目を書いた旗を高く翻して異彩を放つたのは建築請負業のM君であつた、其M君は神田三河町の家と擊劍道場は丸焼けとなつたが今度は其堀立小屋にお題目の旗を立て焼け野原に遠くから見ると不思議がらしてゐる、私の此旗を建築に立てるのは迷信でないが現場守護は第二義です、より多くの人の目に入れる法を重んじ法を廣めるものは諸天は守護すの日蓮の言葉が第一義としてゐる、信仰の報いでもあるまいが、幸ひに血族も使用人も一人の死傷がなく、此旗も亦焼けずに出たが、日頃是にケチをつけた或夫婦は不思議にも丸の内の某建築場地下室で壓死したよと日蓮主義を鼻高々と述べ立てた。

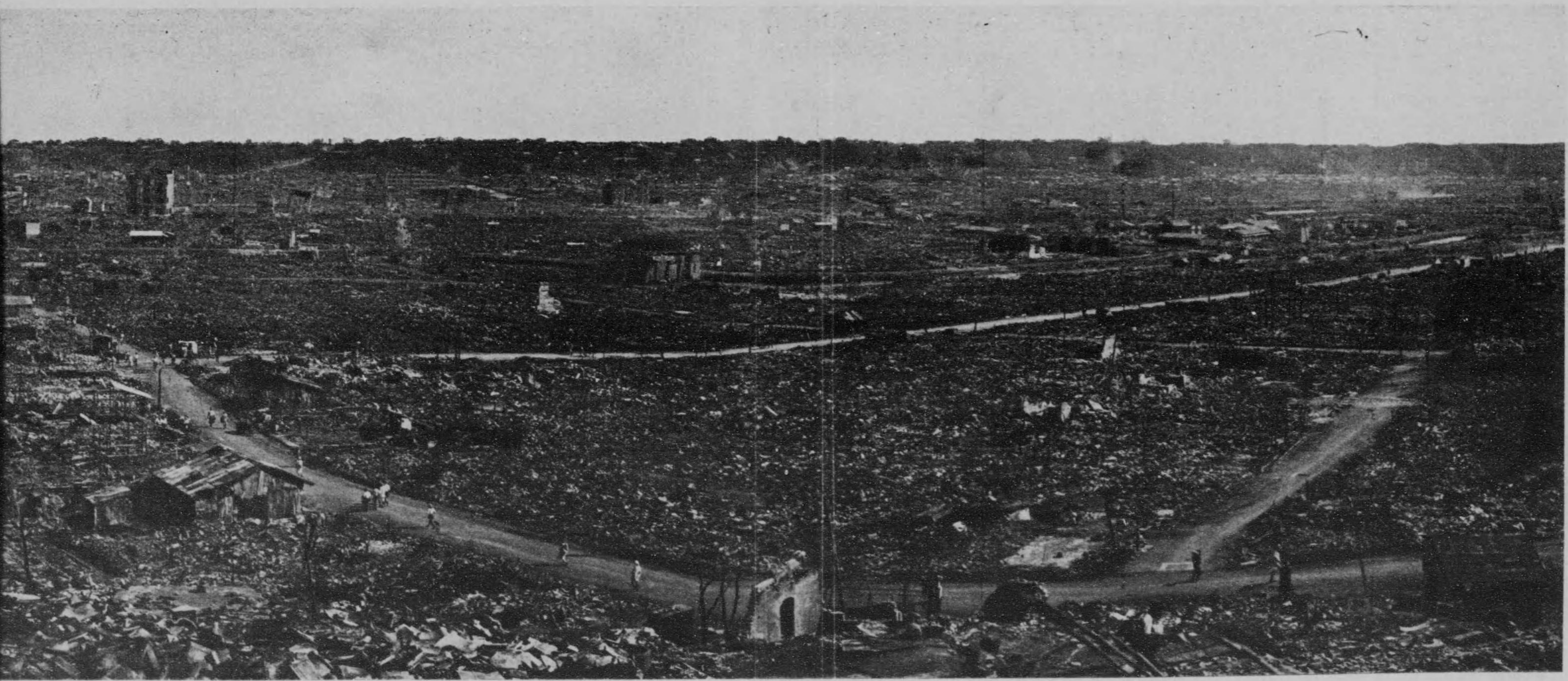


早橋が落ちて駄目であつた、夫れから  
上野へ出て公園で一夜を明かした、後  
になつて分つて見ると家族は當日被服  
廠跡へ避難したので全滅し、自分丈け  
は生き残つたのみならず、會社では忠  
實であつたといふので半數切つた首の  
中で無事になつた上、見舞金とし  
てタンマリ御褒美が下がつた。

夫婦は不思議にも丸の内の某建築  
場地下室で壓死したよと日蓮主義  
を鼻高々と述べ立てた。



毛 野



横濱は震源地に近く且つ海岸の市街であるため被害は東京よりも甚大であつた。輪奥の美を誇つた市街の諸建築物をはじめ、總ゆる民家は激震の起ると共に倒潰し、棧橋は海中に陥没し、道路は到る處決裂し、水道鐵管は破裂して膝を没するの水を迸出し、次で爆撃八方に起つて火は全市を包み、スタンダード、ライオン、サン二會社の石油タンクは巨砲の炸裂するが如くに爆發して毒煙天



た る 横 濱 市 街



Burnt City of Yokohama

野 毛 山 よ り 見



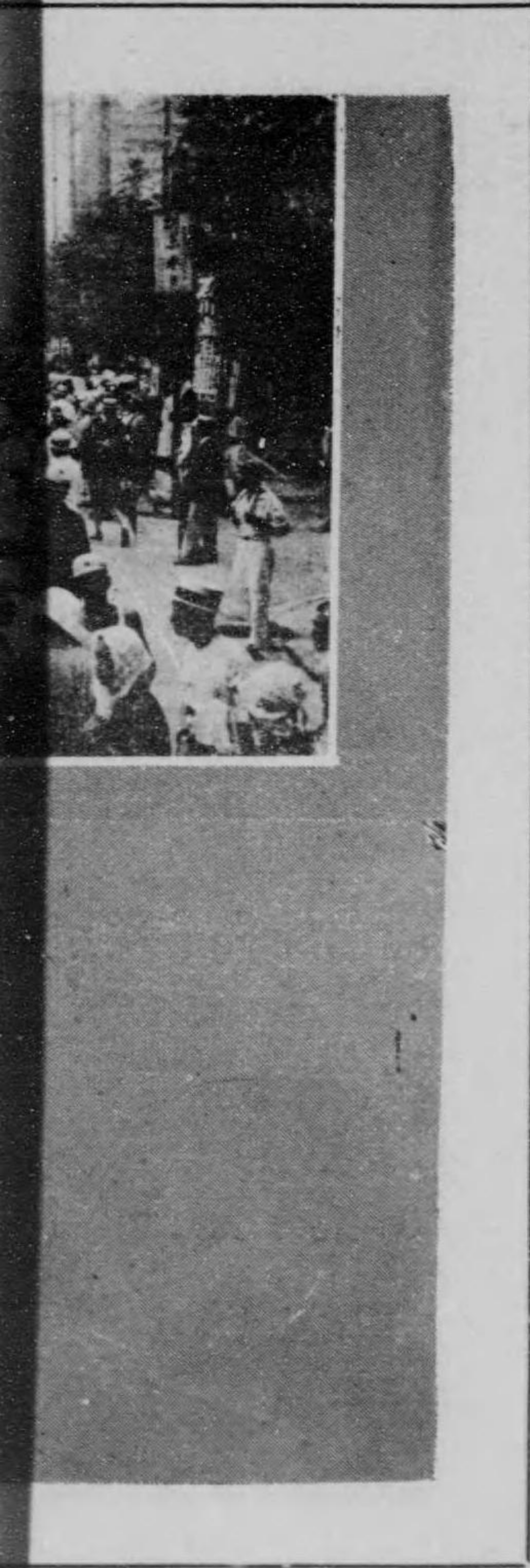
seen from Nogyama Hill.



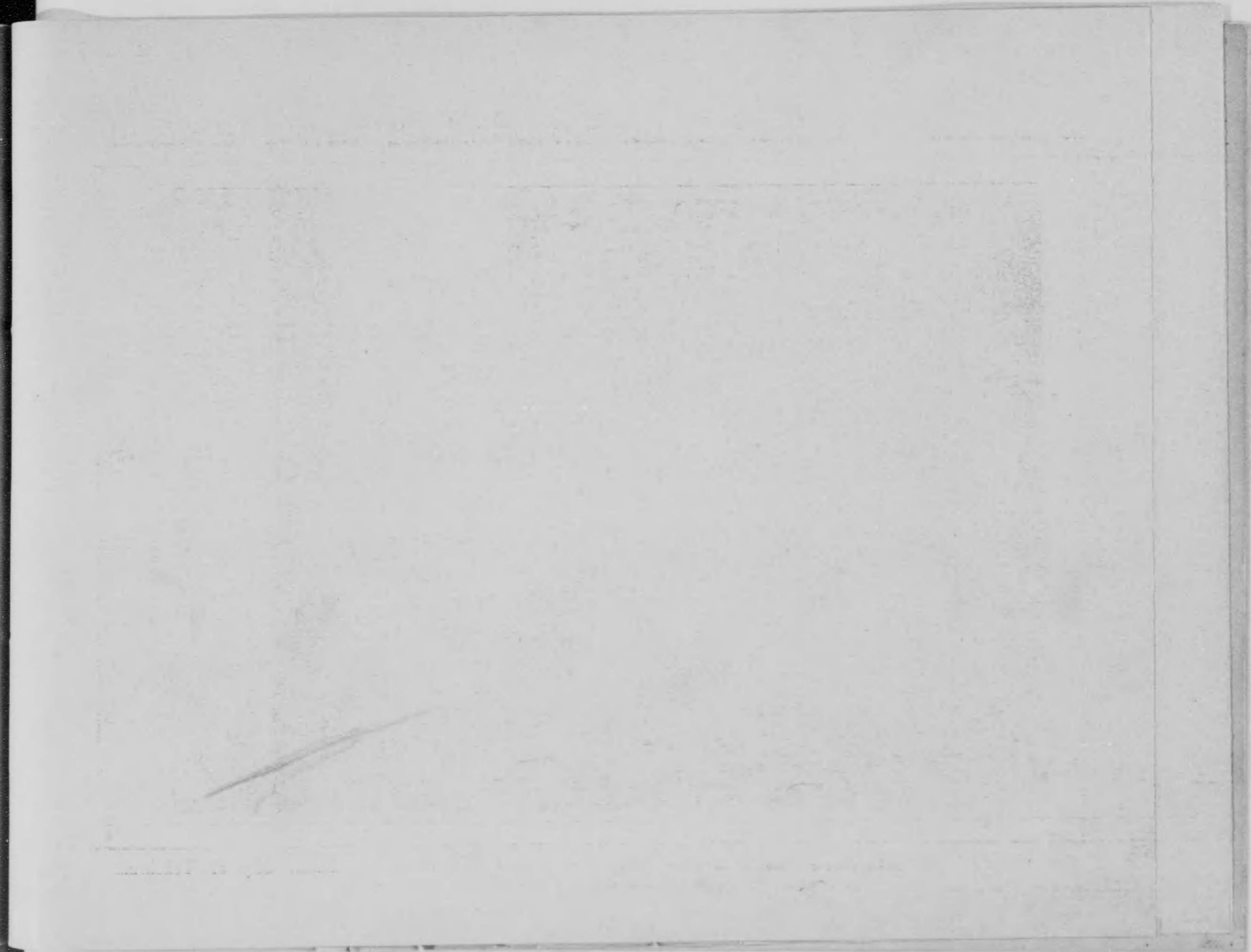


に沖し、石油は燃えつゝ海面に流出して大小のランチ、荷船等に延焼し、水陸俱に危険なる實に言語に絶した。かくて猛火は此市街に狂ふこと三日に亘り、全市殆ど全滅の慘禍を貽して鎮まつた。東京被服廠の大慘事にも比すべき正金銀行の悲惨事をはじめ、壓死者焼死者頗る多く、其總數は二萬三千と稱せられる。在住外人にも相當の犠牲者を生じた。著名な建造物で形骸を存して居るのは開港記念塔と正金銀行に過ぎない。





Advancing fire.





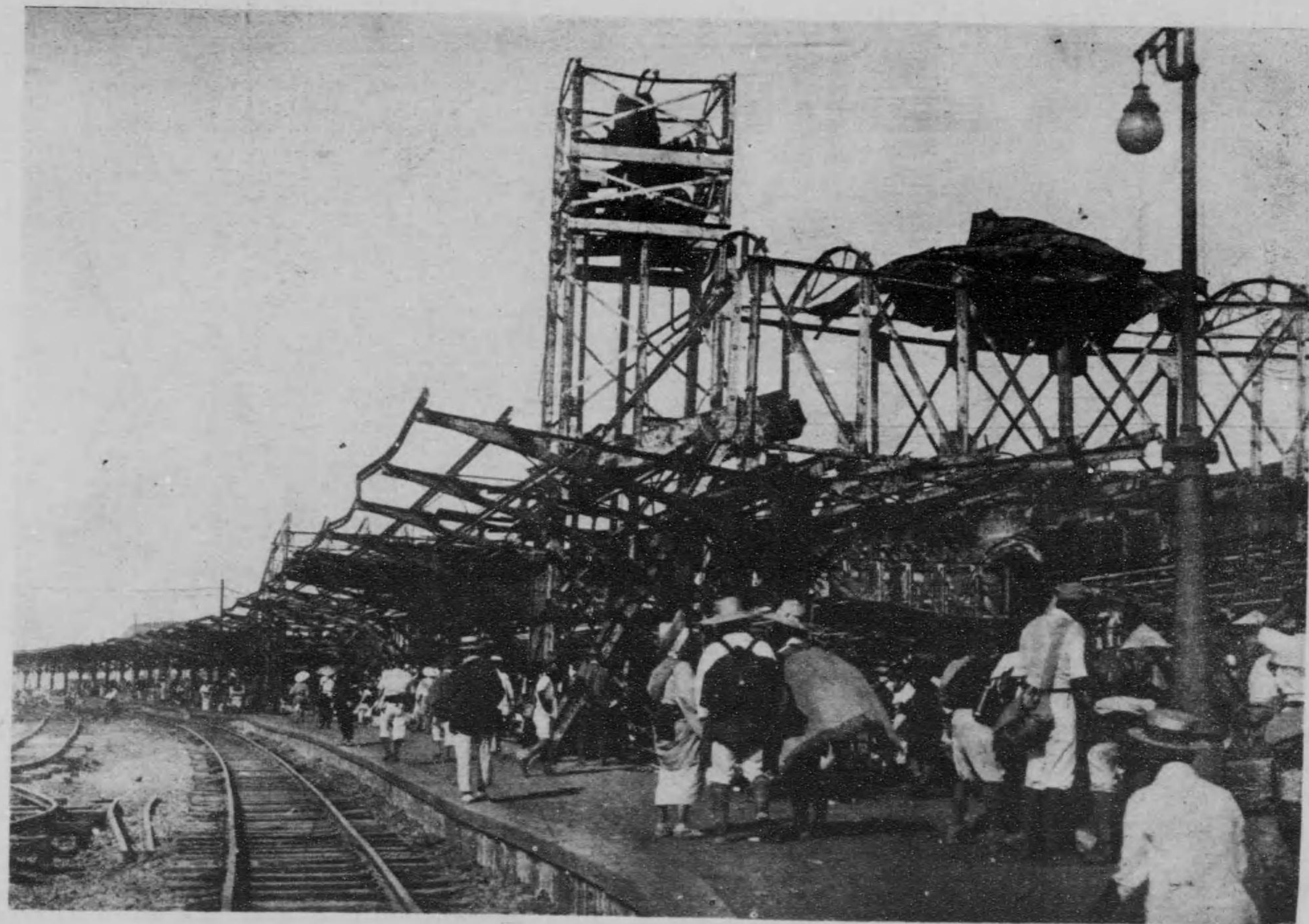
近 附 行 銀 金 正 の 前 の 災 火

横濱は地震と同時に八方より火災が起り、全市は瞬く間に猛火の重圍に陥り、到る處大混雜を呈して阿鼻叫喚の巷と變じた。圖は南仲通り正金銀行附近の火災前に於ける群衆である。小圖は同所の倒壊家屋であるが、間もなく襲ひ來つた猛火のため之も焼失した。



Innumerable refugees crowding near the Yokohama Specie Bank away from the fast advancing fire.  
Smaller: Collapsed houses near the same bank which were soon burnt.





Remains of Yokohama Station.

戸部方面の猛火は石崎川を超えて仲町、材木町附とを一瞬めにし、大正四年に新築落成した横濱驛を襲ひ、驛前の高島町一帯を焼  
拂ひつゝ、北進神奈川驛附近に及び、更に青木町の一角に飛んで漸く終熄した。圖は横濱驛の焼跡である。

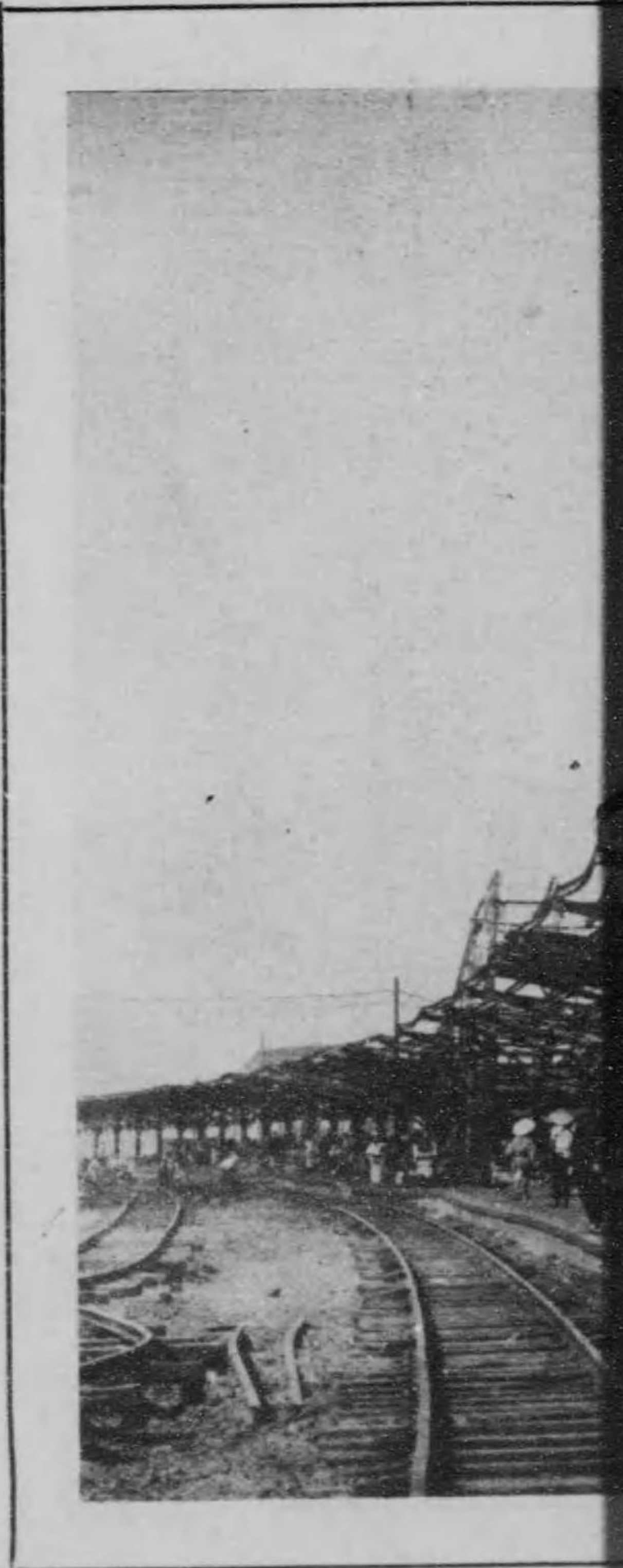




横濱市内の猛火に追はれた人々は大江橋を渡り、櫻木町驛前へ逃れたが、福島町より櫻川を超えた火が忽ちに追つて遂に櫻木町驛を灰燼とし、更に驛前の電車、自動車及び避難者の家財に移つたので、何れも周章狼狽して多数の犠死者を生じた。



Sakuragicho Station, Yokohama.







Ruins of Kanagawa Prefectural Office, Yokohama.

「一日正午大地震に引續き大火起り、全市殆ど火の海と化し死傷何萬あるやも知れず。交通通信機關全部不達、飲料水食糧なし、至急救援を乞ふ」この悲壯な文字は當時神奈川縣廳が發した無線電信である。かくて横浜は遂に全滅した。圖は神奈川縣廳である。



his bank.



横濱正金銀行には、其建物の堅牢を頼んで多数の避難者が居たが、四周を猛火に包まれて逃路を失ひ、千餘の人々は折重つたま、全部葬殺されてしまった。嗣は其大惨事を生んだ正金銀行の残骸と附近の焼跡である。



The Yokohama Specie Bank, Ltd. after the fire. More than thousand lives were lost around this bank.







横濱は全市と共に其生命である貿易機關を失ひ、對外貿易の上に一大打撃を受くるに至つた。輸出の大宗である生糸の損失のみで  
も五千萬圓に達したと言ふ。従つて其回復は容易であるまいと觀測されて居る。圖は横濱取引所の殘骸である。

What remains of the Yokohama Stock Exchange.





横濱會館は明治四十二年、開港五十年記念祭に際して建設を計畫され、大正六年に竣工し、爾來記念會館と呼ばれてゐた近世復興式の宏麗な大建築であつたが、大震災の洗禮を受けて今は僅に外形を残して居るのみである。



Yokohama Assembly Hall in ruin.





激震の當時、海上より横浜市街を望見してゐた人の話によれば、全市に凄しい音響が起ると見る間に、輪換の美を極めた大建築をはじめ市中の民家が一時に薙ぎ倒され、同時に各所より大の手が揚り、烈風か之を煽つて市街を全く黒煙に包んだのは實に一瞬

Deplorable sight of the Grand Hotel after the earthquake and fire.



Hotel, Yokohama.



の間であつたと言ふ。右側は佛蘭西波止場の海岸通りに莊麗を誇つて居たグランドホテルと其附近、左側は同じくオリエンタルホテルと其附近で、何れも破壊後猛火に燃はれた焼跡である。ホテルでも多数の死者を出したのみならず此附近では火に追はれて海中へ落込み、溺死を遂げたものが少くない。



Ruins of Oriental Hotel, Yokohama.



Deplorable sight of the





ction near the Yokohama Pier.



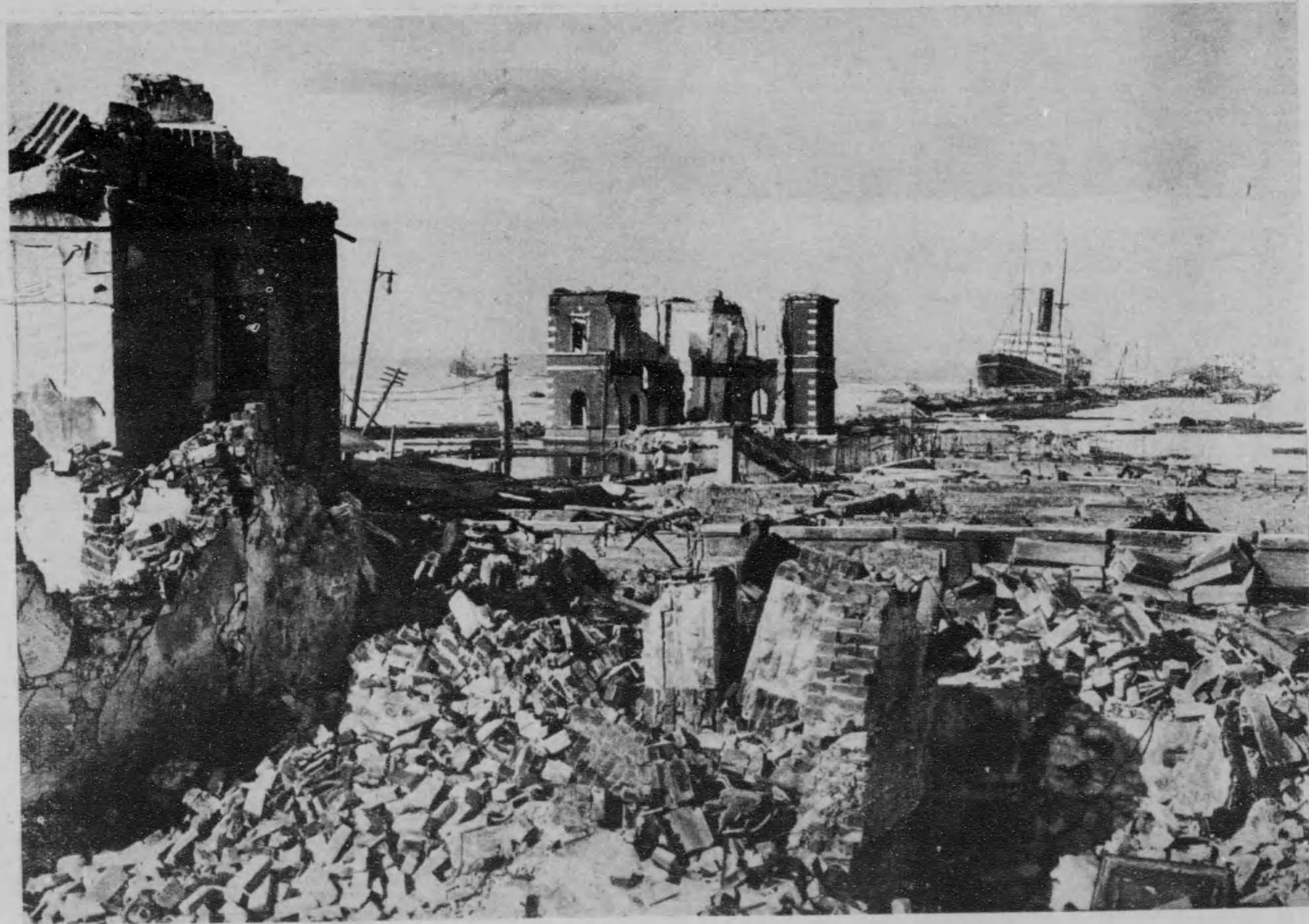
All warchouses of the Yokohama Custom House were burnt to ashes.

横濱税關附近では、激震と同時に棧橋が海中へ陥没し、咫尺を辨せざる大水煙を揚げ、暫時にして傾斜のまま、半ば水面へ浮んだ。岸壁は低下崩壊し、軌道は波状形を描き、上屋は倒れ至み、起重機は其上に倒り、隨處に大龜裂を生じ、税關、英米兩領事館、商



(117)

船、郵船の諸建物何れも倒伏し、横濱、淺野の二大船渠も全壊した。しか、全市に火災起るを見るや、税關其他の全壊した諸倉庫に向つて盛んなる掠奪が行はれ、其取締のため遂に軍隊の出動を見るの痛恨事を生じた。右圖は税關倉庫一帯、左圖は棧橋附近の焼跡である。



Devasted section near the Yokohama Pier.



All warehouse





House in ruins.



Honcho-dori as seen after the fire Yokohama.

横濱市外の大小道路は地震と共に到る處大龜裂を生じ、水道は水管破裂して路上に迸り、園内一帯は忽ちに塵を没するの深さと成つた。神奈川県、横濱市役所、郵便局等何れも全部又は一部倒壊して多数の死傷者を生じた。火に追はれた市民は、或は横濱公



圖へ逃れ、或は野毛、本牧方面の高層を志し、或は海岸へ奔り船沈没のため路を阻まれて返る等右往左往の大混雑を極めた。當時停泊中の内外船舶は辛く難を免れて罹災者の救助に努めた。右圖は本町ビルディング附近の焼跡、左圖は商業會議所と銀行集會所の焼跡である。

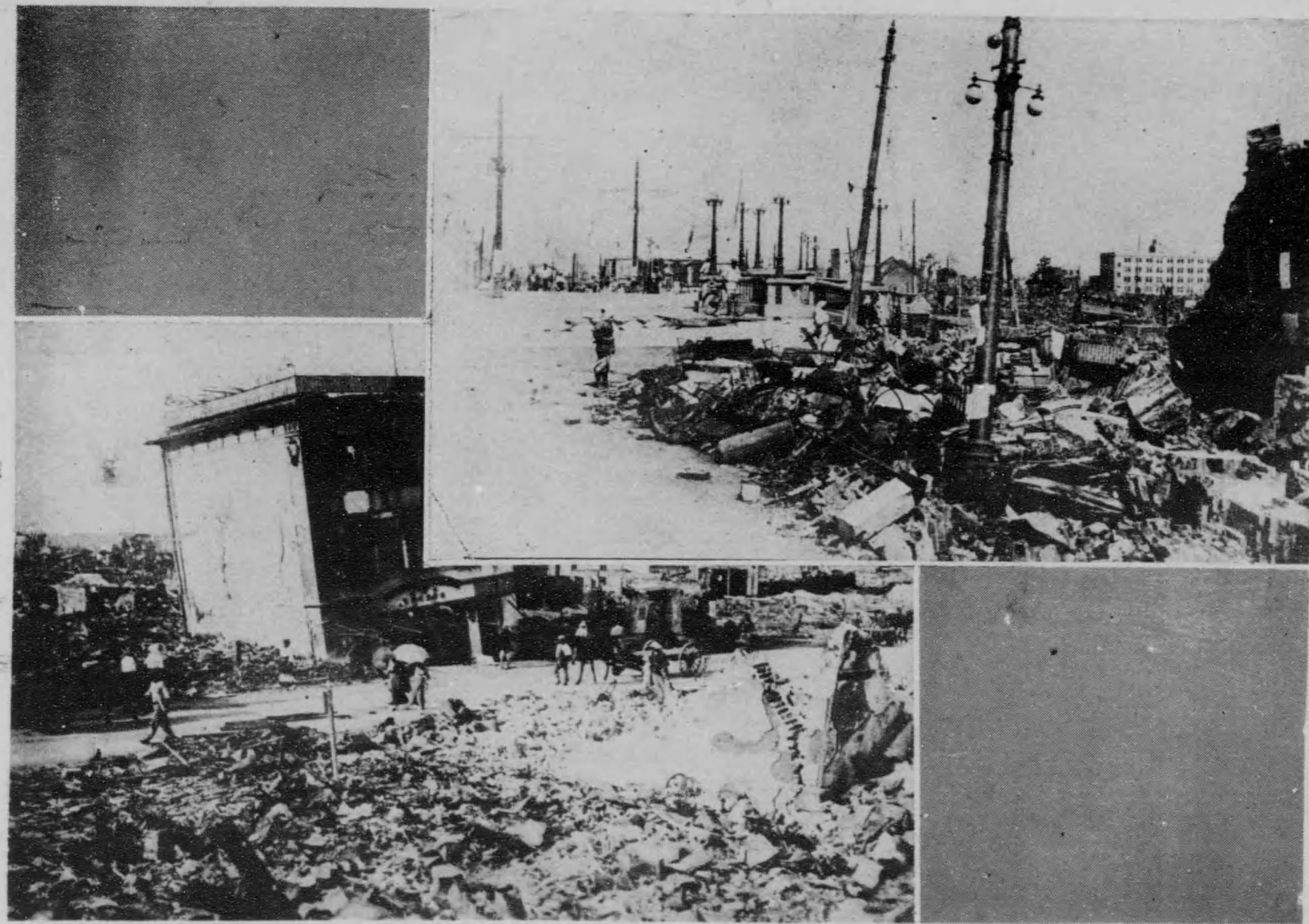


Chamber of Commerce and Banker's Meeting House in ruins.



Honcho-dori as seen after the





伊勢佐木町は一方吉田橋を経て、横浜の要衝である場車道に通じ他方は遊廓に到る、この地第一の商店街として、其繁榮を誇つて居たが、今は滿目焦土と化し、附近の劇場二、活動寫眞館六も皆焼失した。

Devastation at Isezaki-cho, a busiest street in Yokohama.



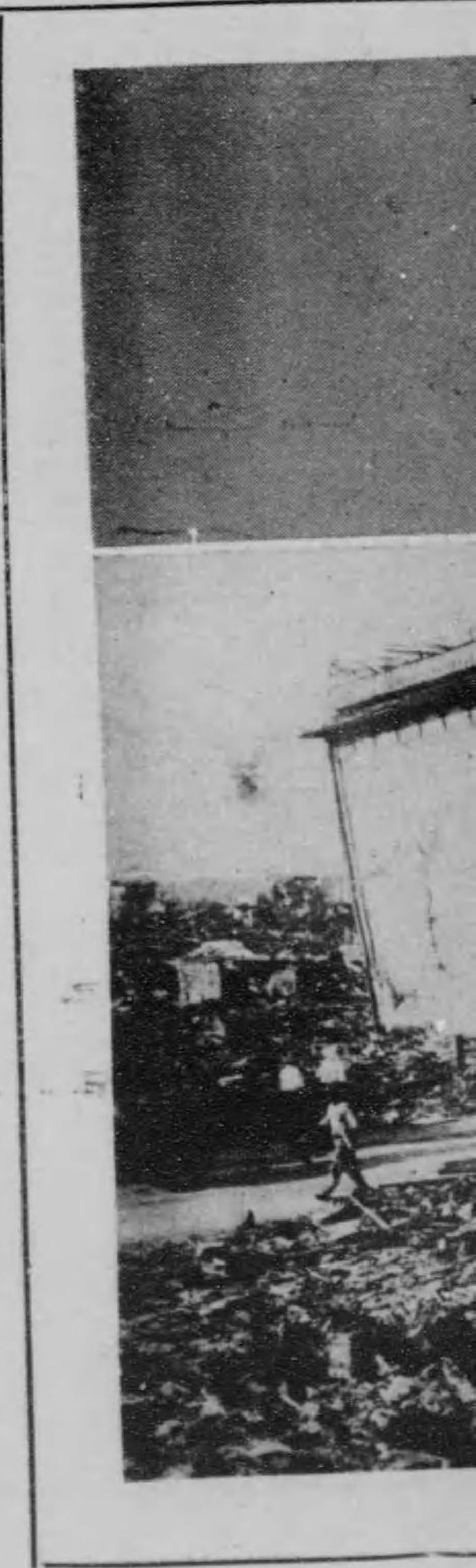
(121)

近 附 園 公 濱 横

面積一萬九千四百餘坪を有する横濱公園は、最初安全地帯と目され、太田、相生、住吉、尾上、眞砂、湊の各町其他越後町方面の人々約五萬が避難したが、水道の破裂に遭ひ更に猛火に包まれて水火の責を受け、無残の死を遂げた人も少くなかつた。



Devastation of the Yokohama Park.







横浜は大岡川をはじめ其他大小の河川運河に包まれて居るので、橋梁の数は甚だ多い。然るに震火に際して其大半が破壊焼失したため、避難者は途を阻まれ、之によつても少からざる犠死者を出した。圖は豊國橋の殘骸で前方に望めるは吉田橋である。

Toyokuni-bashi Bridge, Yokohama, broken down.





馬車道は南仲通、辨天通、太田、相生、住吉、尾上の各街を縦貫する直線の大路で、西南吉田橋を経て伊勢佐木町の街衢を通じ、東西海岸通に至る要衝で、驛より埠頭に赴く人は多く、この道に依つた。今は全くの焦土と化し、災前の繁盛復た見るよしもない。



Bashamichi-Jori, one of the main streets of Yokohama, burnt to the ground.





原 焼 る た 見 り よ 畔 橋 天 辨

(124)



辨天橋畔より見たる本町、南仲通、辨天通一帯の焼跡である。千餘名の犠死者を出した正金銀行は南仲通りにある。圖の左方に當る處が北仲通で、其横濱地方裁判所は激震のため倒潰し、末永所長をはじめ判檢事、辯護士其他六十餘の壓死者を生じた。

Burned ground seen from Benten-bashi Bridge, Yokohama.



quake.



横濱は震源地に近く且つ海岸であるため、地震直接の損害は東京より更に甚しい。岸壁の崩潰、市中道路の決裂、水道鐵管の破裂等の状況によつても、家屋の倒壊数は確實に東京以上であつた事が推測される。圖は雲井町路面の大龜裂である。



Fissures on the street at Kumoi-cho, Yokohama. A sample of the tremendousness of the earthquake.







萬代、不老、翁、扇、壽、松影、吉濱の各町は四圍を河川に包まれた一區劃で、震火に際し各橋梁が殆ど破壊無失した爲め、住民の混亂其極に達し、遂に多數の死傷者を生じた。圖は地蔵坂より龜の橋を隔て、望んだ其殘跡である。

Ruins in the vicinity of Kamenohashi Bridge seen from jizo zaka (hill), Yokohama.



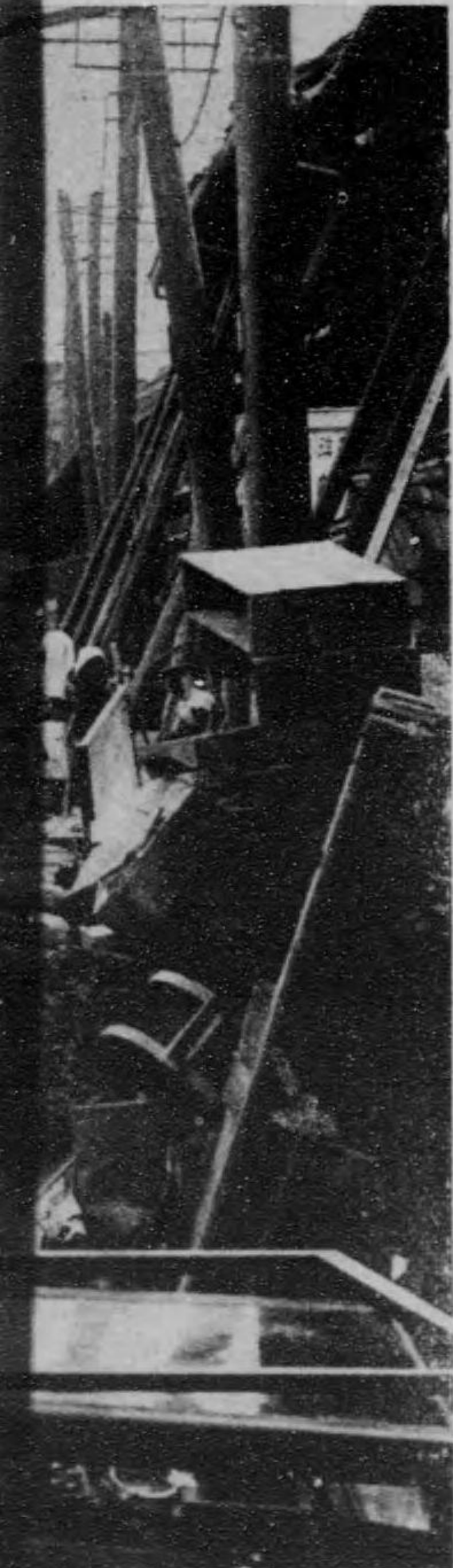
横濱唯一の温泉郷であつた眞金町遊廓も、關内藝妓の粹を誇つた狭斜巷も、同じく祝融氏の訪れを受け、昨は脂粉の香漂ひ絃歌起つた處、今は新鬼嘯々と哭するの地と變じ、遊子の哀情を坐る切ならしめてゐる。上圖は眞金町一帯、下圖は同遊廓入口の殘跡である。



Magane-cho, a prostitute quarter in Yokohama, devastated.







were shaken to the

市 賀 須 横



ground by the quake of which half were further destroyed by the fire.

横須賀市の被害は又頗る激甚で、全市一萬一千八百戸の家屋は僅に百餘戸を半壊状態に残して悉く倒壊した。鎮守府、海軍利務所、海軍工廠等何れも倒壊し、碇泊中の軍艦三隻は艦底を傷けて浸水したが岩盤上に沈坐して漸く沈没を免れ、入渠中の潜水艦二隻は大破し、更に重油タンクは重油流出のため火災を起す等、海軍の損害のみでも約七千萬圓に及んだ。重油タンクは深々たる黒煙を



掲げて九日まで燃え續け、約十五萬噸の重油を失つた。死者は五百餘名で、最も悲惨な極めたのは、正午横須賀着の列車より降りた水戸高等女學校の修學旅行生百二十餘名其他の乗客が、停車場を出て鎌守府給品部横手の道路を通行中、崖崩れのために全部埋没された事である。右側は中里通り、左側は流板通りの倒壊家屋である。



Devastation at Yokosuka. Nearly all houses in the City were shaken to the



ground by the qual





横須賀市も地と共に火災が起り、大瀧、若松、小川、旭、山王、細岡、深田、念音寺等市内目貫の各町に延焼し、約四千戸を烏有に歸せしめた。主なる建物では海軍病院、海軍機關學校、海兵團、郵便局等が焼失した。圖は米ヶ濱より見たる突跡のバラックである。

Barracks built on the burned ground seen from Yonegahama Shore, Yokosuka.



函嶺附近





### 被服廠跡の泥中から

本社重役の親戚であるK氏は家族と共に例の被服廠跡へ避難した、間もなく曾て知らぬ一大旋風が起つて向ふ方の何物かを捲き揚げたと思ふと忽ち頭上へ箆筒が落ちて来る、荷車が荷物の儘飛んで来る、焼けトメンなどが雨のやうに降つて来る、無我夢中で夫れをはねのけ、したまでは覺へてゐたが、その後フト氣が付くと、泥の中へ半面を突込んで村木の下になつてゐるやうだから掻きのけやうと思ふと、右の腕が痛んでならないので、左手で掻きのけて漸く顔を上げて見ると驚いた、今迄村木と思つたのは死體であつて見渡す限り横はつてゐた、第一其邊に家族が見えないのでせめて母丈けでもと捜し廻つたが、一體自分の居所が變つてゐるのでどうしても見當らぬ、その中自分の重傷の痛みに堪へかねて由の手方面へと辿つた、重傷者の倒れてゐるのはもう死人扱ひでその時分には殆ど救護が届いてゐない、赤坂警察署まで来て始めて假手當を受け石手の折れた事が分り、慶應大學病院へ收容され大手術の上一命を取り止めた、後で考へて見ると多勢の人達が一度に捲き揚げられて夫れが振り落されたのらしいと。

### 何が幸となるか判らぬ

下谷區のMと云ふ人はあの大地震突發の當時、東京稅務監督局で所得稅の二重決定に不服を申立て其拂戻し請求の手續きをして居た、所が地震に續く火事騒ぎに喫驚し蒼くなつて我家に歸つて居ると防火の甲斐もなく悉皆烏有に歸して無一物の丸裸になつて終つた、上野の山に避難して餘りの事に呆然として居たが偶と思ひつたのは例の税金拂ひ戻しの一件で早速四谷稅務署内の監督局假事務所に駆けつけ五十何圓かの拂戻しを受け「何が幸ひになるか判らぬ」として僅の金だが悲嘆の裡にもホクホクもので退き下つたと。

### 旋風で大川の真中へ

本社長の子息の學友M君の咄しに依ると同邸内へ逃げ延びた父博士の知人某は、被服廠跡へ避難した一人で、メリ／＼普を立て自分も足が地上から離れたと思ふと、後は假死したと見えて一切分からなくなつた、氣の付いた時は大川の真中へ放り込まれてたのであつた、幸ひに水泳が出来るので浮び上るなり泳いだ、雨岸とも泳げど／＼火燭で寄付く場所がない、長い間泳ぎ抜いて濡れ鼠の儘附近で一夜を明かし、四五里の道を前日來香まず喰はずで辿り付いたと。





駿河縣北方小山町の富士紡績社は第二工場全潰、第一、第五工場大破、第三、第四工場焼失、其他倉庫、食堂、寄宿舎、炊事場、醫務室等悉く全潰して、従業員中の職員及び男女工約二千名中、三百數十名の惨死者を生じ言語に絶する惨害を被つた。



Pitiful state of Oyama Factory of the Fuji Spinning Company, Tokaido.

倒れてゐるのはもう死人扱ひでその時分には始ど救護が届いてゐない、赤坂警察署まで来て始めて假手當を受け石手の折れた事が分り、慶應大學病院へ收容され大手術の上一命を取り止めた、後で考へて見ると多勢の人達が一度に捲き揚げられて夫れが振り落されたのらしいと。

くなつた、氣の付いた時は大川の真中へ放り込まれてたのであつた、幸ひに水泳が出来たので浮び上るなり泳いだ、岸にも泳げどく火焔で寄付く場所がない、長い間泳ぎ抜いて濡れ鼠の儘附近で一夜を明かし、四五里の道を前日来呑まず喰はずで辿り付いたと。





天柱折れ地軸揺くと言ふ文字は単に虚構でなかつた。誰か此路面を見て戦慄を禁じ得ないものがあらう。圖は酒匂川附近に於ける國道の碁盤目になつて大龜裂である。

Fissures in high-way near the Sakawa River.



橋 匂 酒

(133)

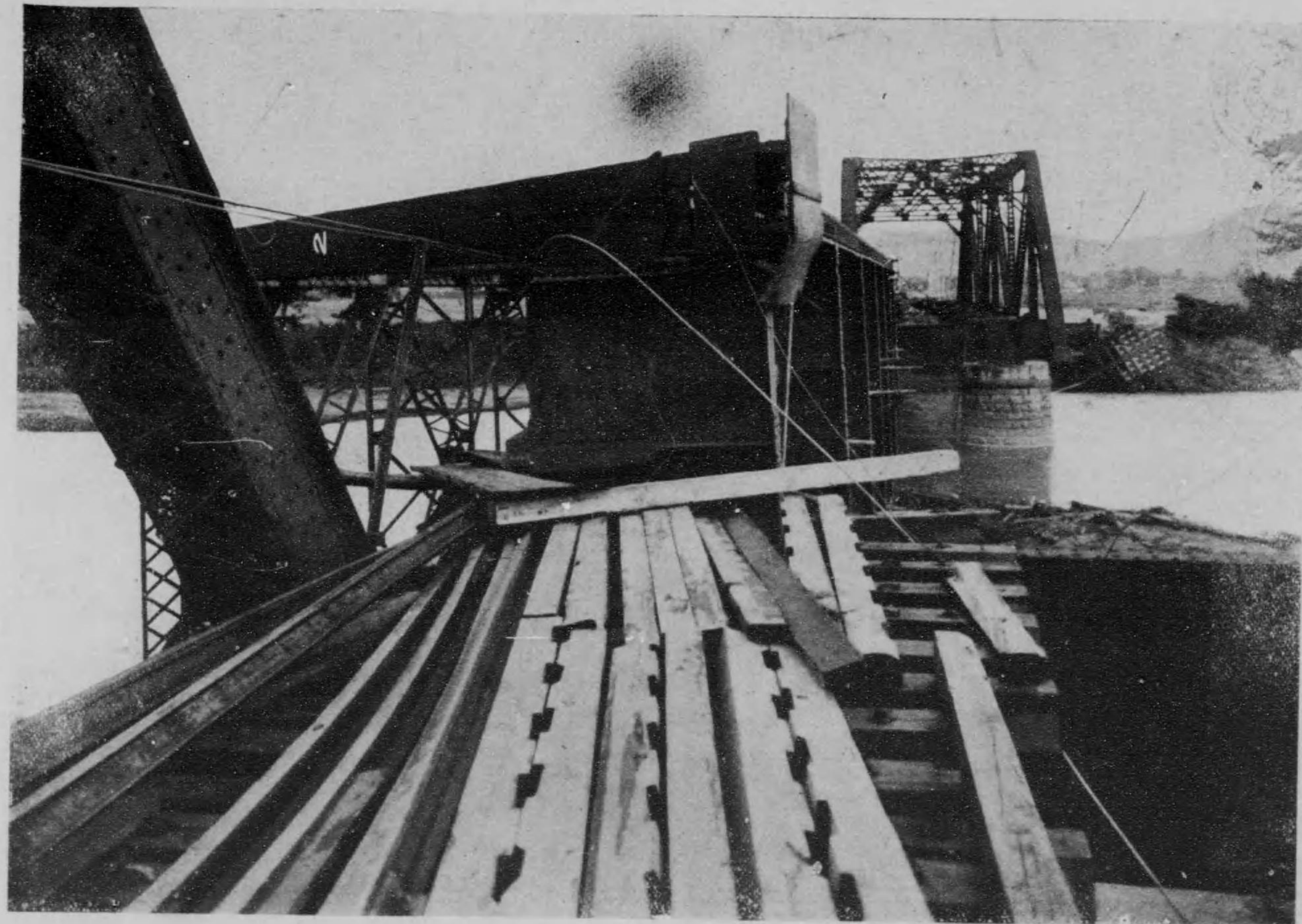
小田原と國府津を連絡する酒匂橋は、竣工開通後未だ間のない新橋で、東洋第一と稱せられたコンクリート橋であるが、第一震と同時に脆くも大破倒壊し、水中深く陥没してしまつた。



Sakawa-bashi Bridge between Odawara and Koze. The long concrete bridge lately span, was broken at the first shock.







酒匂川の大鐵橋も酒匂橋と共に墜落し、線路は全部波を打つて脱離した。この二橋梁が破壊した爲め、小田原に救助の道を斷たれ、一時孤立無援の死地に投ぜられたのである。

Iron bridge over the Sakawa River near Kozu, Tokaido.





小田原の焼失区域は、幸町一丁目より四丁目に至る目貫の街路全部と、緑町、万年町、新玉町及び十字町の一部で、全町の約三分の二で、焼残つた處も全部倒壊を免れなかつた。圖は壊滅した十字町の一部である。

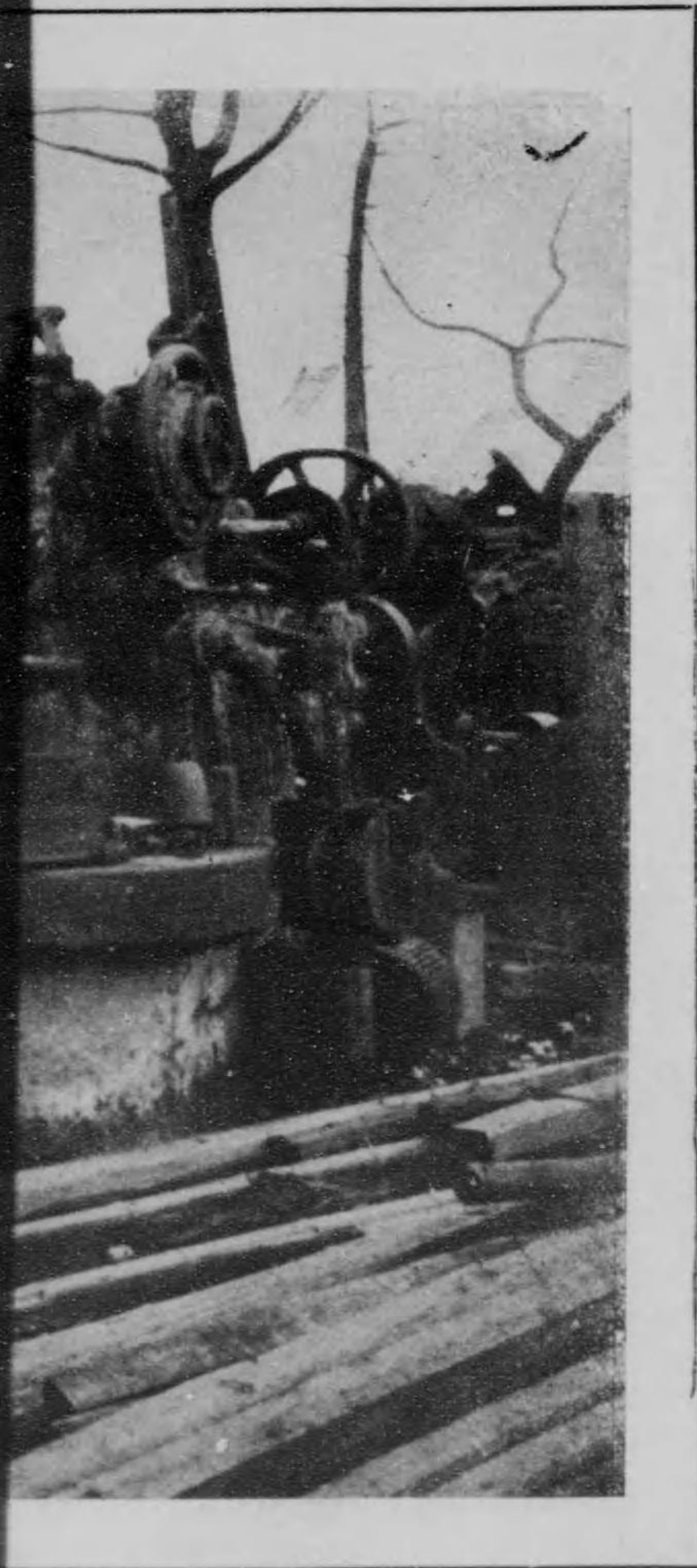


Devastation at Jujimachi, Odawara, Tokaido.





小



Company.

小 田 原 驛 前

(136)



小田原驛は地震のためホーム上屋全部、附属建物全部倒壊し、軌道に大亀裂を生じて線路は陥没する等惨憺たる光景を呈した。圖は驛前の惨状である。

Devastation in front of the Odawara Station.



(137)

小 田 原 車 庫 附 近

殆ど全滅の禍害を被つた小田原は、激震に次いで火災が起り、火勢激しく延焼しつゝある間に海嘯の襲來を傳へられたので、其の混亂の状は言語に絶した。圖は箱根湯本行電車車庫附近の焼跡である。



Burned ground in the neighbourhood of Odawara Electric Railway Company.







小田原郊外寺町の小田原紡績會社は、激震と同時に建物全部倒潰し、折柄従業員中の工女六百餘名は其下敷と成り、悲鳴を擧げて救ひを乞ふる等大混亂を呈し、多数の死傷者を生じた。

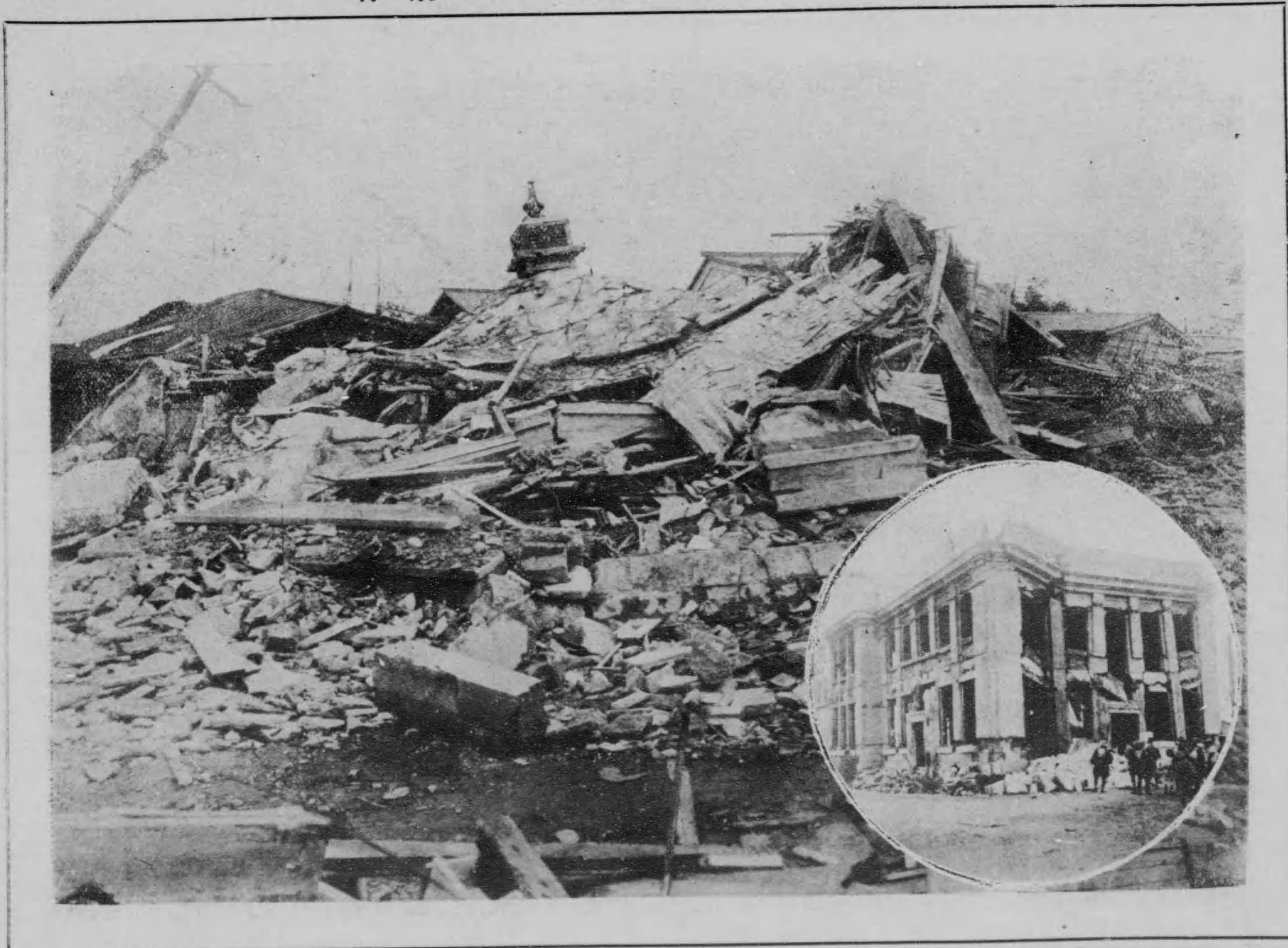
Devastation of Olawara Spinning Company.





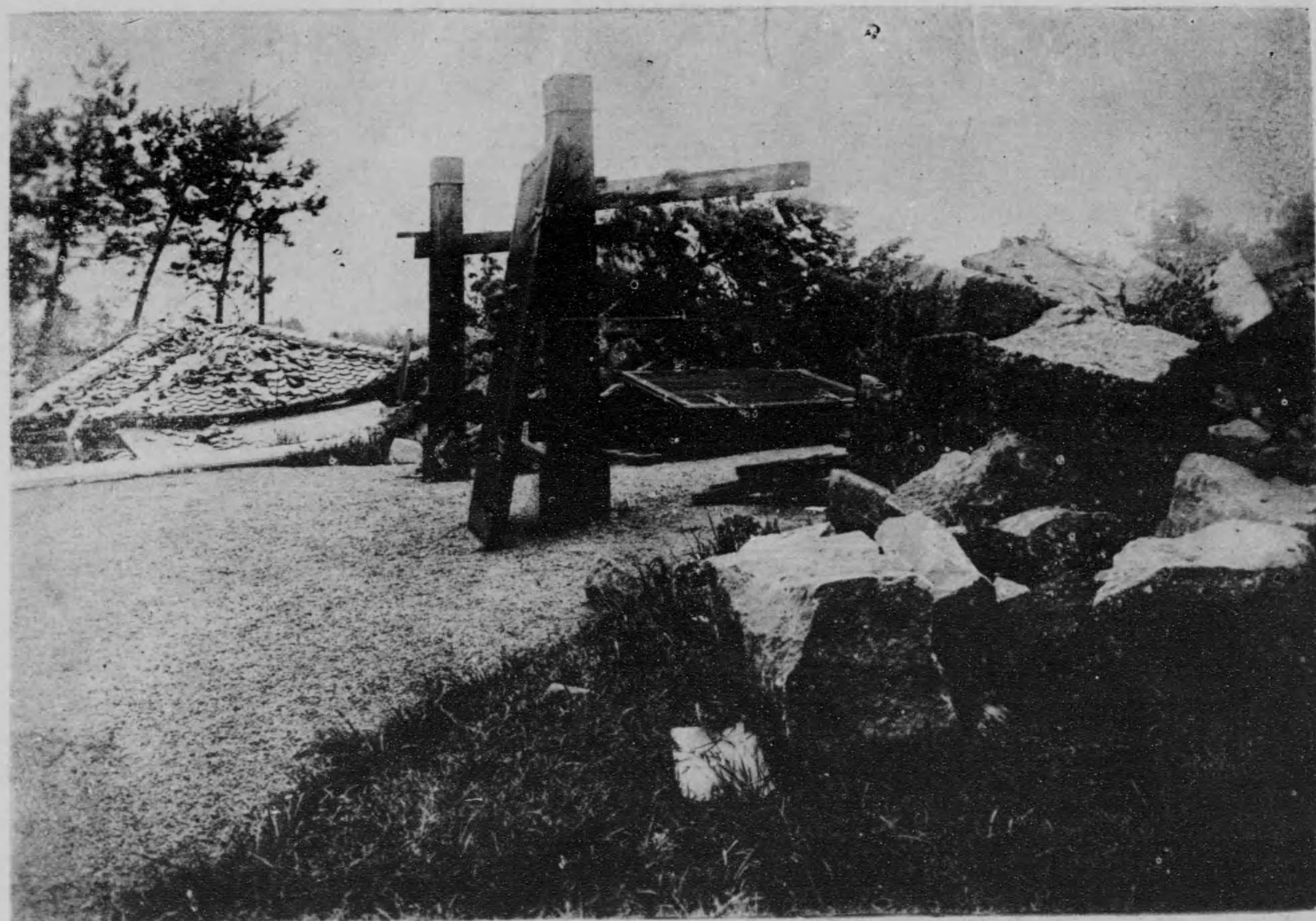
行銀二の原田小るせ壊倒

大圖は小田原國府津銀行・小圖は同通商銀行である。この外小田原高等女學校、三小學校、町役場、郵便局、病院、製氷會社、遊  
廓等小田原に於ける著名の建物は全部倒壊崩落の上大部分は火災に罹つた。



Collapsed two banks at Odawara.  
*Larger:* Branch of the Kozu Bank. *Smaller:* The Tsusho Bank.





小田原郊外の御用邸も園に見るが如き災害を受けた。この附近一帯は、風光明媚な相模全灣を、一望の下に指呼し得る景勝の高地である。附近小峯の二宮神社も大破した。

Damages of the Imperial villa at Odawara.



(14)

閑院宮御用邸



小田原小峰、閑院宮家の御別邸は激震と同時に倒潰し、爲に王女寛子女王は薨去あらせられた。御芳紀十八、御痛はしき極みである。圖は御用邸附近より望んだ其御別邸である。下方は御用邸前の避難民。

Ruins of Villa of H. I. H. Kamin at Odawara where a young princess died under collapsed house.  
*Smaller*: Refugees in front of the Imperial villa.







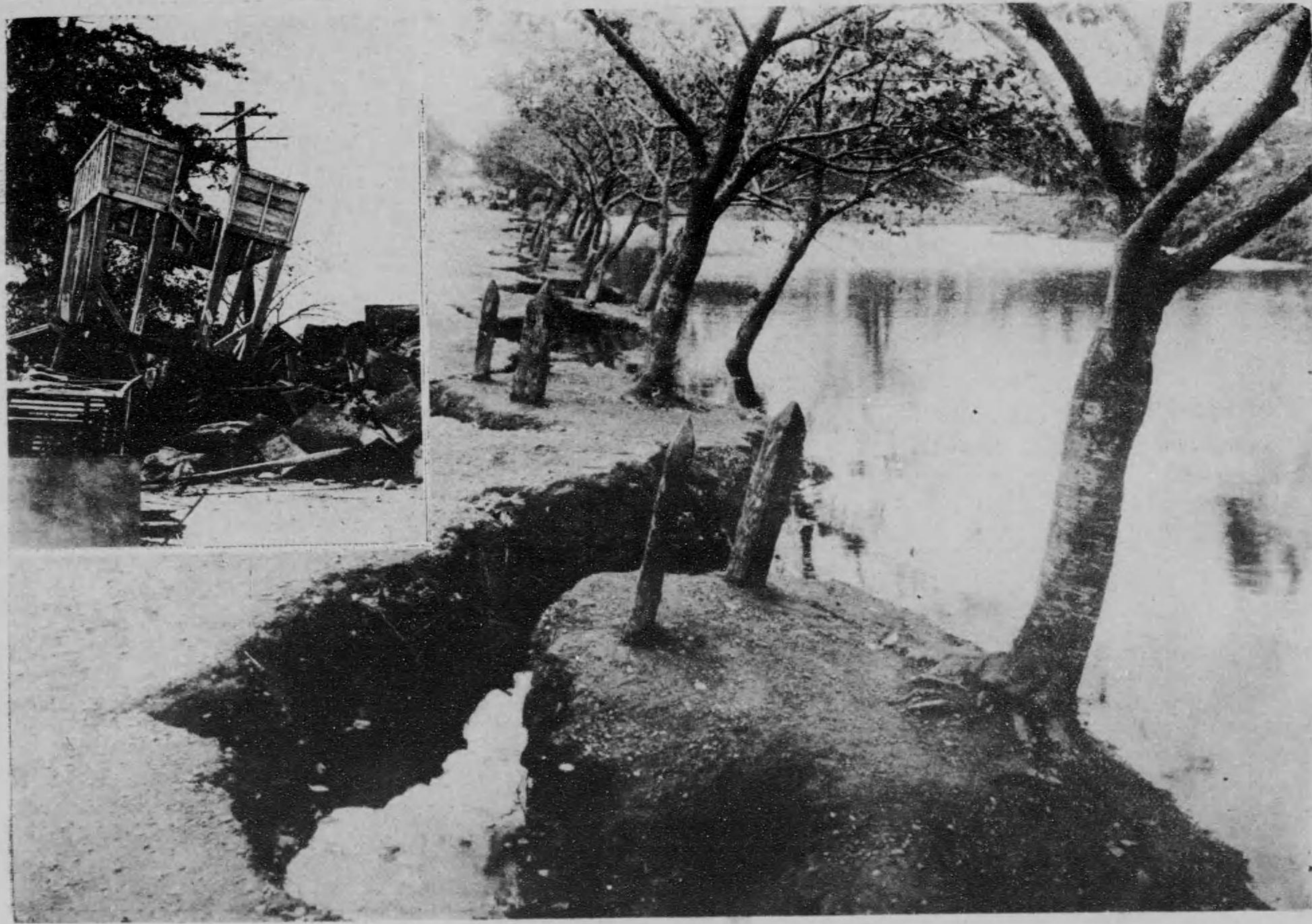
Broken wall of the Odawara Castle.

小田原に於ける地盤の震害は一帶に甚しかつたが、就中驛前、幸町通り及び小田原城外附近は最も物凄く、各處に三尺以上の大亀裂、陥没を生じた。圖は崩壊した濠端である。





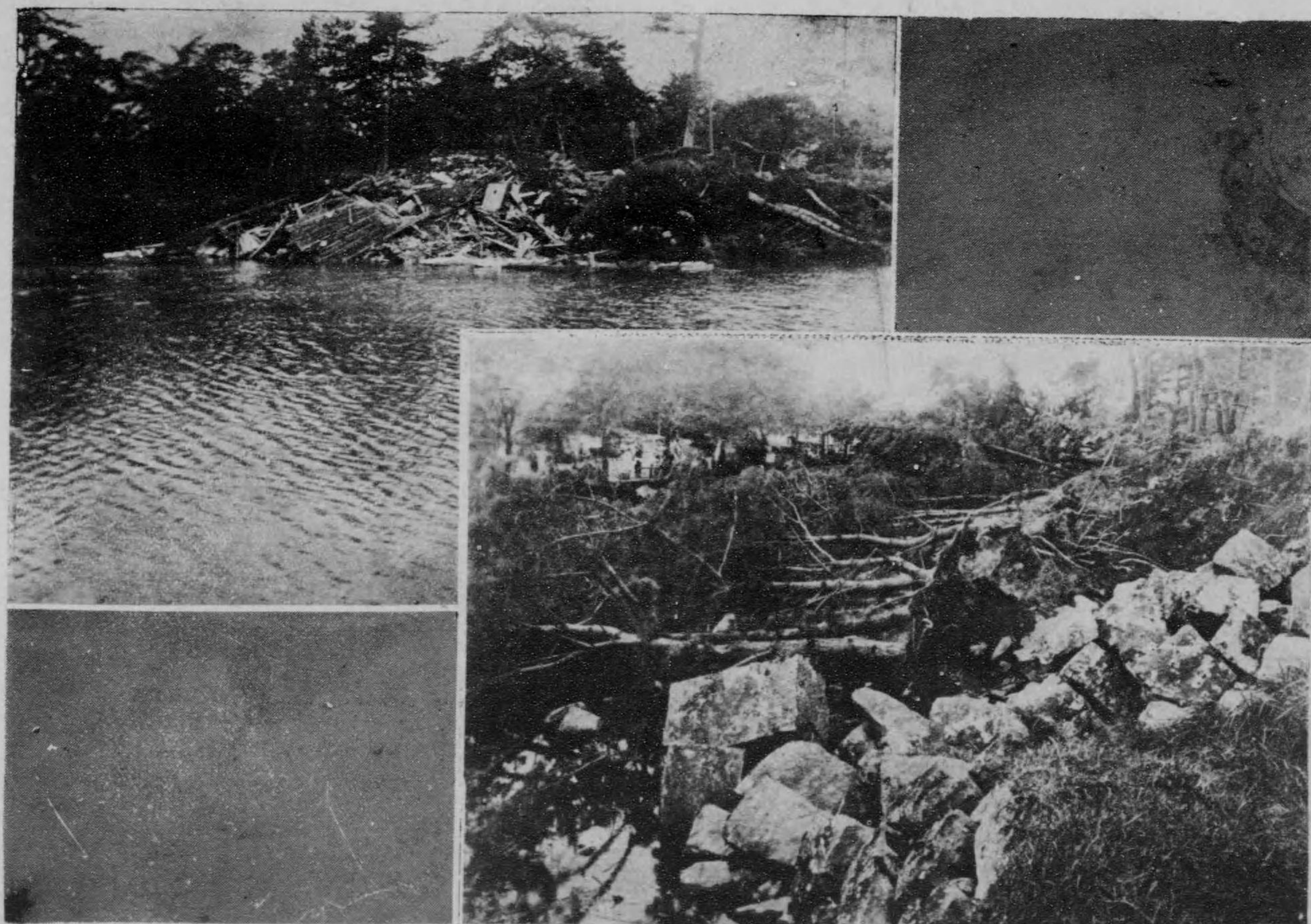
圖は小田原城外の路面の陥没で、約六尺の深さを示し、地震の如何に激しかりしかを物語つて居る。小圖は滑稽にも文字通りに違  
轉した城外附近の鐘樓である。



Ground fell in nearly 6 feet at out-side of the Odawara castle.





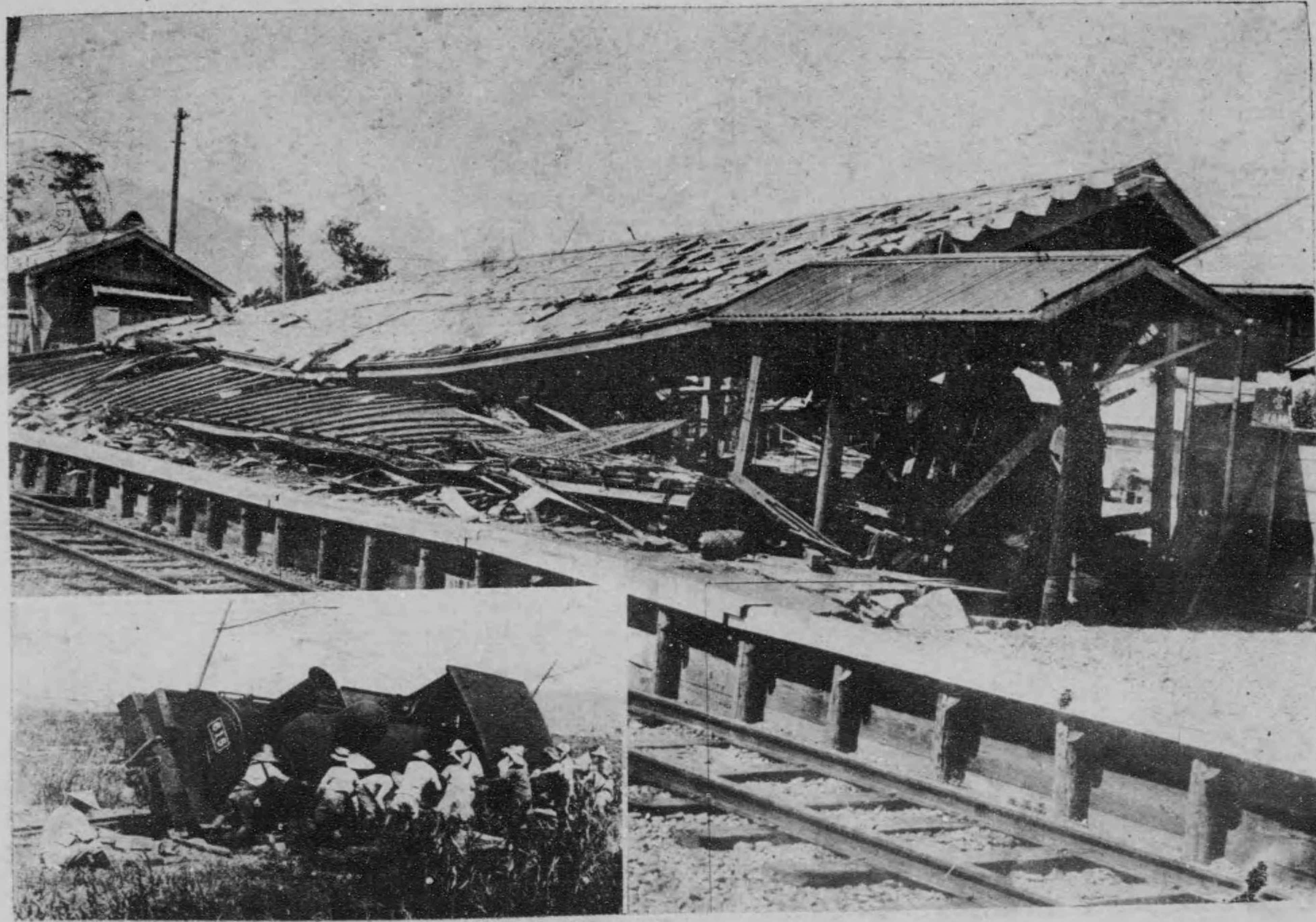


近く箱根の天險を扼し、北條以來海道の名城と謳はれた小田原城も、激震のため脆くも倒壊し、城内一帯に多大の損害を被つた。圖は崩壊した城内泉石の一部である。

Damges in the interior of the Odawara Castle.



熱海鐵道線の損害は激甚を極め、沿線悉く陥没又は崩壊し、近く開通せんとした真鶴熱海間の工事も大頓挫を來して、爲に熱海温泉地は俄に交通を奪はれること、成つた。圖は其基礎國府津と小田原間にある鴨宮驛の倒壊慘狀、小圖は同線で轉落破壞した機關車である。



Kamomiya Station near Odawara, terminus of the Atami railway.  
Smaller: Train overturned at the Station.







Yumoto Station.



Collapsed houses in front of Yumoto Station, Hakone.

箱根七湯の一たる湯本では、激震と共に一丈餘の巨岩が驛前に轉落して電車を跳飛ばし、同時に崖が崩壊して驛のプラットホームの大部は埋没し、附近の家屋は悉く倒壊した。更に塔の澤湯本間は湯坂山が崩壊して不通と成り、早川の溪流は半ば埋れ、早雲寺



(147)

は半壊し、初花の流は埋没する等四邊一帶の光景は凄惨を極め、緯樹辭蒼、蒼蒼く人亦蒼しと詠はれた蓋日の風致今は全く跡方もない。たゞ共同温泉のみは無事に残つた。右圖は湯本驛前の倒壊家屋、左圖は同驛附近に轉落した巨岩である。



Huge stone fallen down from precipice near Yumoto Station.

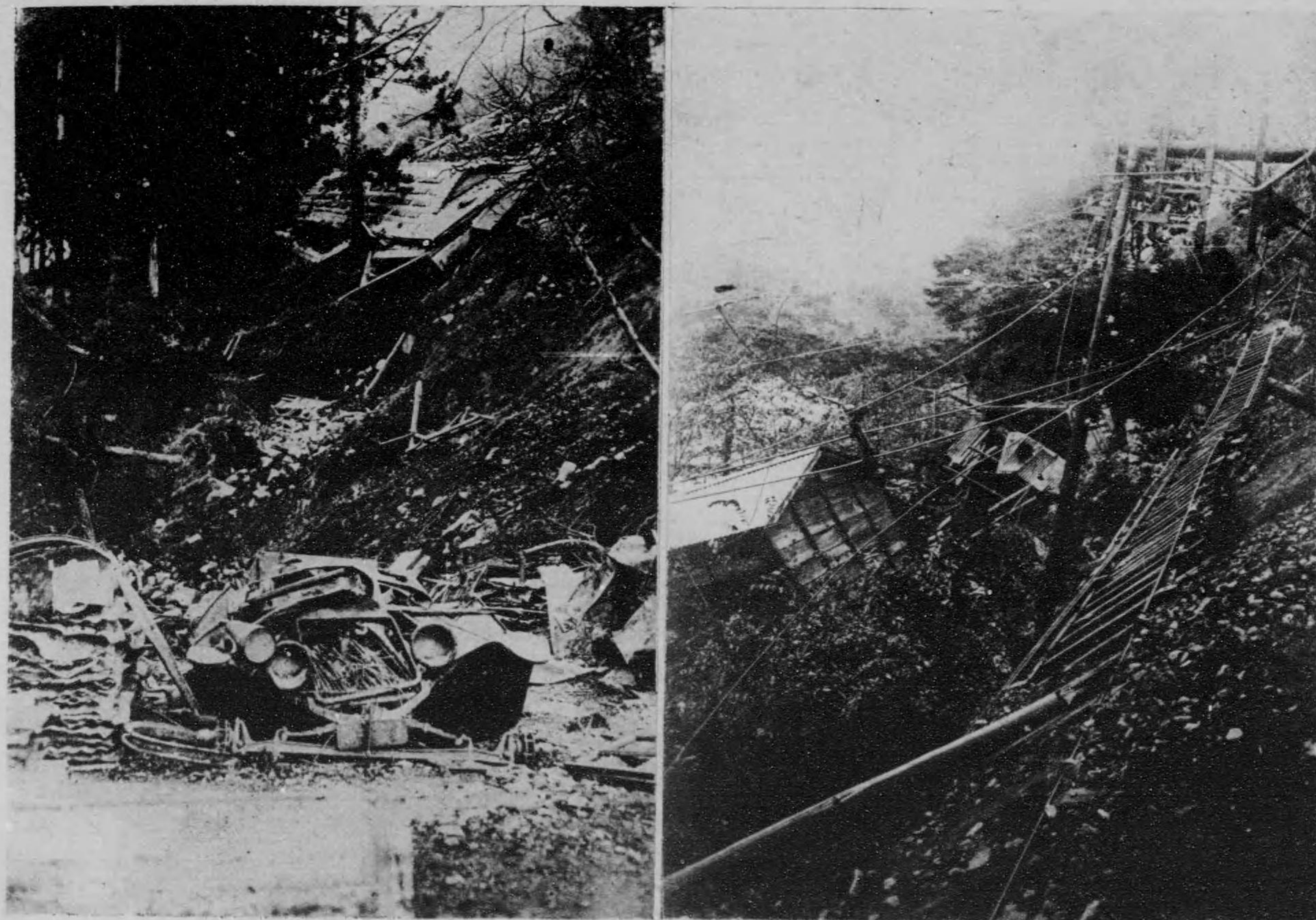


Collapsed houses in fr





ountneering electric-car, Hakone.



Land-slide near Yumo'o (left) and Miyanshita (right), Hakone.

箱根は一時全滅を傳へられた程で、湯坂山、塔の峰の大崩壊をはじめ、山と言ふ山は悉く斜面が崩れ、蛇骨川兩岸の断崖は處々決  
潰し、登山電車線路の沿線は到る處崩壊して新道は全く閉塞され、其交通は辛うじて舊道に依るの外ないと言ふ慘憺たる状態に陥



壊崩と地

(149)

つた。湯本、塔の澤、宮の下、堂ヶ島、底倉、木賀等震害は最も甚しく、大平峯、小涌谷、大涌谷、宮城野、仙石原、強羅等は比較的輕微であつた。右圖は湯本附近と宮の下附近の地入り、左圖は強羅に至る登山電車線路の崩壊である。



Destruction of railway tracks of the mountneering electric-car, Hakone.



Land-slide near Yunomae





箱根宮の下の被害は頗る甚しく、家屋は道路の崩壊と共に谷底へ墜落し、更に轉落した巨石に壓潰される等目もあつた。写真は崩壊した斜面と青年俱樂部で呈した。刺さへ震後火災を起して奈良屋、近江屋、大和屋等の旅館其他二十數軒が焼失した。圖は崩壊した斜面と青年俱樂部である。

Devastation at Miyanshita, Hakone.





(151)

ル テ ホ 屋 士 富



箱根第一の旅館富士屋ホテルの本館は、火災を免れて原形を留めて居るが、甚しく傾斜大破して全く修理の途がない。圖は三十餘臺の自動車焼失した同ホテル自動車庫の焼跡である。

Garage of Fujiya Hotel at Hakone as seen after the fire.

